

広島市子どもの生活に関する実態調査 報告書（概要版）

令和6年6月

広島市こども未来局

目 次

I 調査の目的及び概要

1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期間	1

II 調査結果の概要

1 経済的な状況	2
2 暮らしの状況	3
3 保護者の状況	7
(1) 子どもの進学先の展望	7
(2) 頼れる人の有無	9
(3) 心理的な状態	10
4 子どもの状況	13
(1) 学習の状況	13
(2) 進学希望	17
(3) 生活習慣	19
(4) 悩みごとの相談先	21
(5) 心理的な状態	22
(6) ヤングケアラーの実態	24
5 新型コロナウイルス感染症の影響	26
(1) 保護者	26
(2) 子ども	27
6 支援制度の利用状況等	31
(1) 支援制度の利用状況	31
(2) 支援制度を利用していない理由	33
(3) 子どもの居場所	35
7 充実を望む支援	36

I 調査の目的及び概要

1 調査の目的

本市の子育て世帯の経済状況や子どもの生活実態、貧困の状況にある世帯・子どもの支援ニーズ等を把握し、子どもの貧困対策に係る効果的な支援策及びその実施方法等についての検討を行うための基礎データを得ることを目的として、広島県及び県内の他の市町と共同し、国が示した調査票様式を基本として実施した。

2 調査の概要

(1) 調査対象

市内の小学5年生とその保護者及び中学2年生とその保護者

区 分		小学5年生	中学2年生
調査対象者数 (無作為抽出)	子ども	4,000人	4,000人
	保護者	4,000人	4,000人
有効回答数 (回答率)	子ども	1,411人 (35.3%)	1,292人 (32.3%)
	保護者	1,407人 (35.2%)	1,292人 (32.3%)

(2) 調査方法

郵送によるアンケート調査

(3) 調査期間

令和5年8月

「報告書の見方」

- 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 図表中に示す「n」は、回答総数を表している。

II 調査結果の概要

1 経済的な状況

世帯の年間収入の水準について、次のとおり等価世帯収入を算出したところ、本調査における等価世帯収入の中央値は325万円であり、その2分の1は162.5万円※であった。

本調査では、内閣府の「子供の生活状況調査」（以下「内閣府調査」という。）を踏まえ、最も収入の水準が低い等価世帯収入が「中央値の2分の1未満」の世帯やひとり親世帯を中心として傾向の把握・分析を行った。

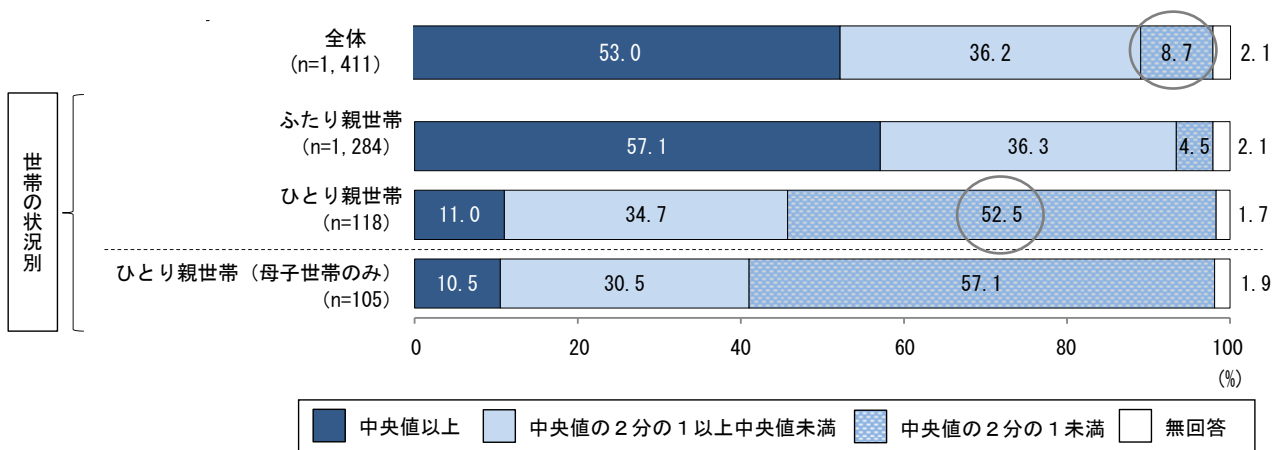
「等価世帯収入の算出方法」

- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする（例えば「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。）。
- 上記の値を、生計を同一にしている家族の人数の平方根で除す。

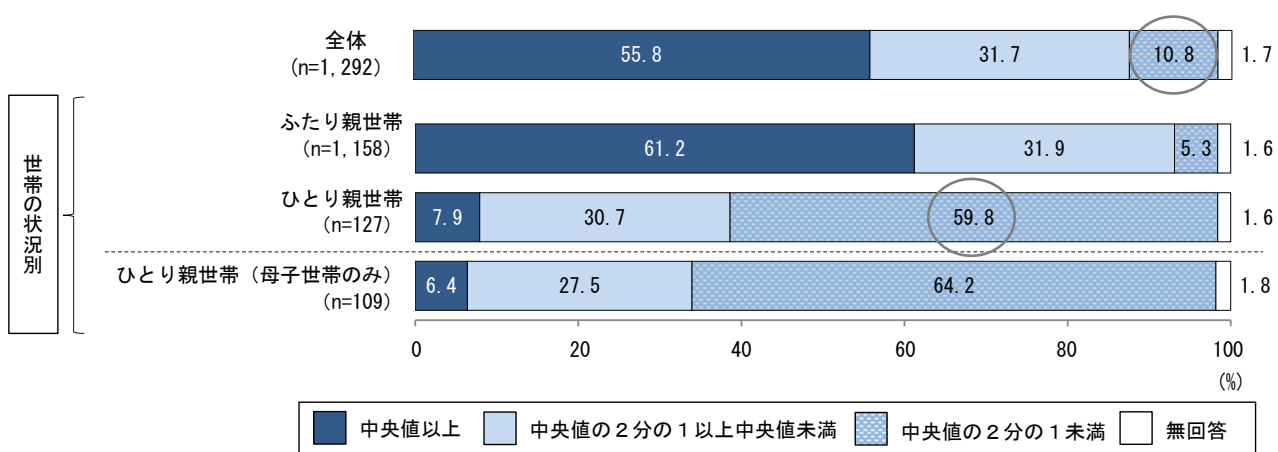
等価世帯収入で世帯を分類すると、「中央値の2分の1未満」の世帯の割合は、小学5年生の世帯全体で8.7%、中学2年生の世帯全体で10.8%であった。

世帯の状況別にみると、ひとり親世帯では、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯が、小学5年生の世帯で52.5%、中学2年生の世帯で59.8%と高くなっている。

【小学5年生世帯】



【中学2年生世帯】



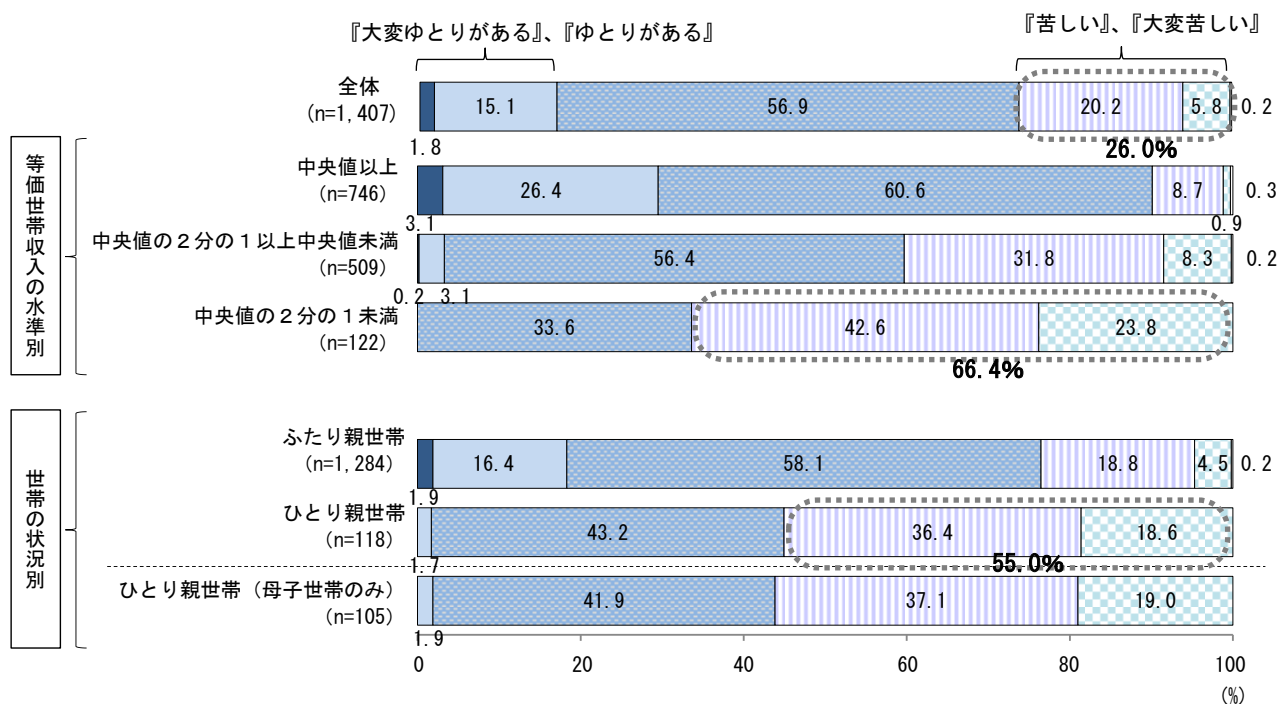
※ 等価世帯収入の中央値の2分の1「162.5万円」を年間収入で見ると、2人世帯では約229.8万円、3人世帯では約281.5万円、4人世帯では325万円の年間収入となる。

2 暮らしの状況

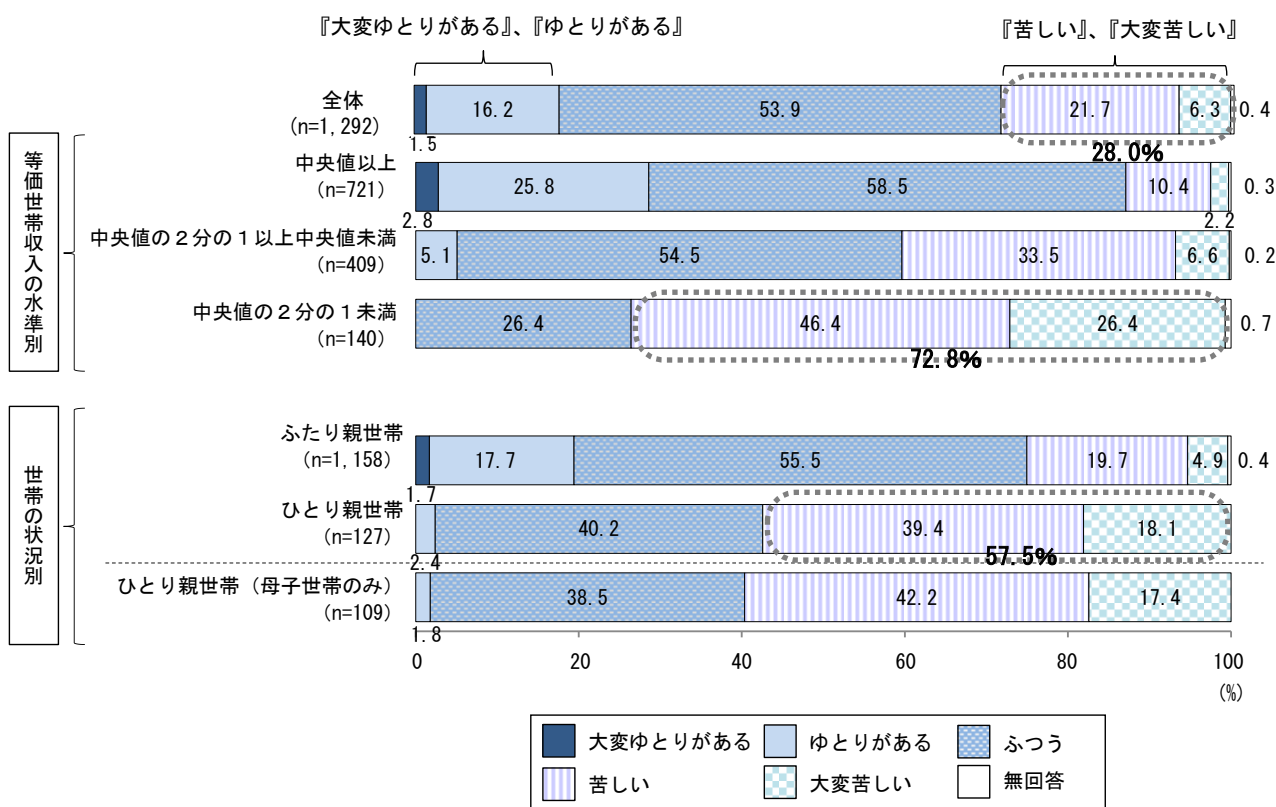
暮らしの状況について、『苦しい』又は『大変苦しい』と回答した割合は、小学5年生の保護者全体で26.0%、中学2年生の保護者全体で28.0%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生の保護者で66.4%、中学2年生の保護者で72.8%、ひとり親世帯では、小学5年生の保護者で55.0%、中学2年生の保護者で57.5%であり、『苦しい』又は『大変苦しい』と回答した割合が高くなっている（グラフ①）。

<グラフ① 暮らしの状況>

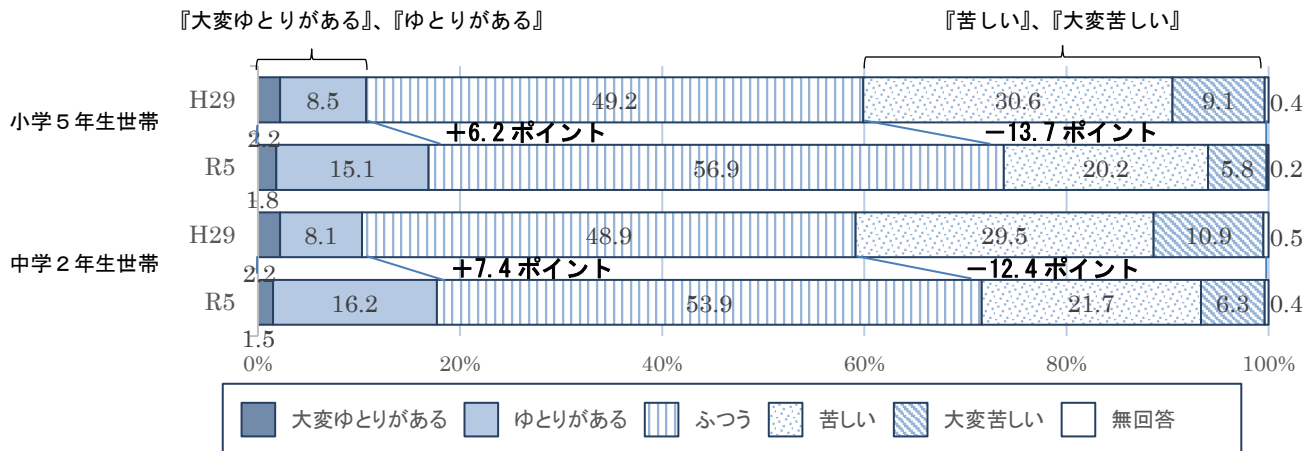
【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】



(参考) 暮らしの状況について、本調査と平成 29 年度に実施した「広島市子どもの生活に関する実態調査」(以下「平成 29 年度調査」という。)の結果を比較すると、『大変ゆとりがある』又は『ゆとりがある』は、小学 5 年生世帯で 6.2 ポイント、中学 2 年生世帯で 7.4 ポイント増加し、『苦しい』又は『大変苦しい』は、小学 5 年生世帯で 13.7 ポイント、中学 2 年生世帯で 12.4 ポイント減少している。

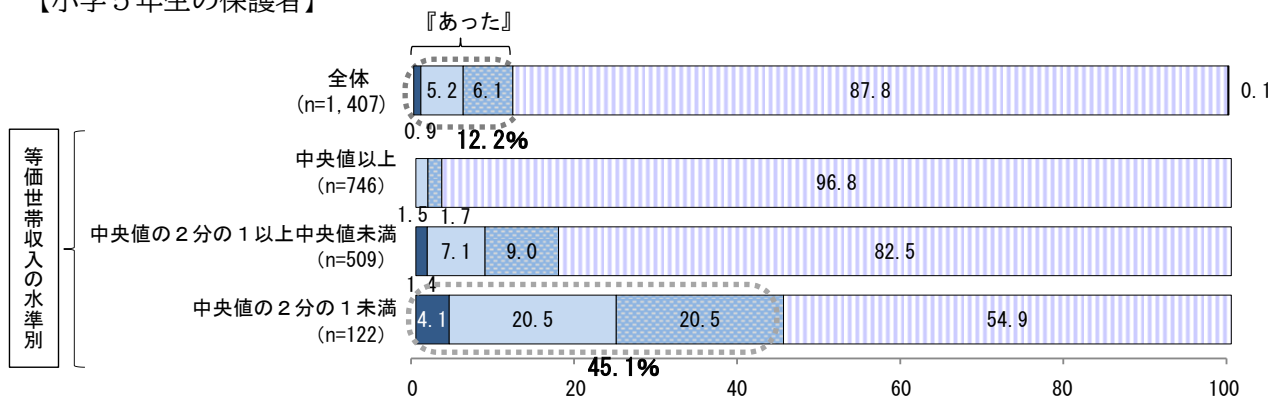


過去 1 年間に経済的な理由で食料が買えなかった経験があると回答した割合は、小学 5 年生の保護者全体で 12.2%、中学 2 年生の保護者全体で 12.5%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の 2 分の 1 未満」の世帯では、小学 5 年生の保護者で 45.1%、中学 2 年生の保護者で 48.6%となっており、等価世帯収入の水準が低くなるほど経済的な理由で食料が買えなかった経験があると回答した割合が高くなっている (グラフ②)。

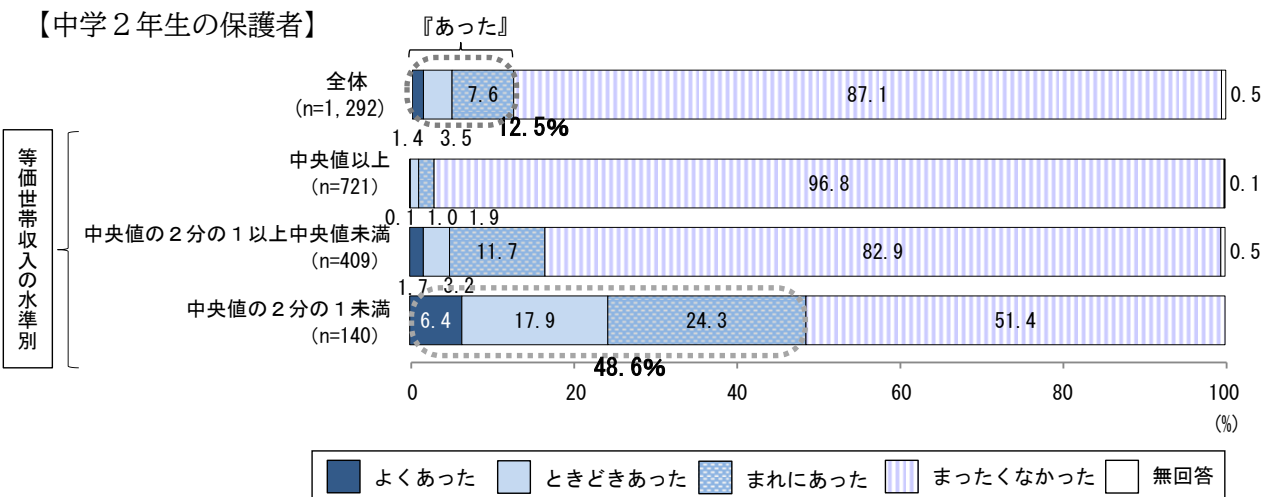
次頁の衣服が買えなかった経験についても同様の傾向がみられる (グラフ③)。

<グラフ② 過去 1 年間に経済的な理由で食料が買えなかった経験>

【小学 5 年生の保護者】

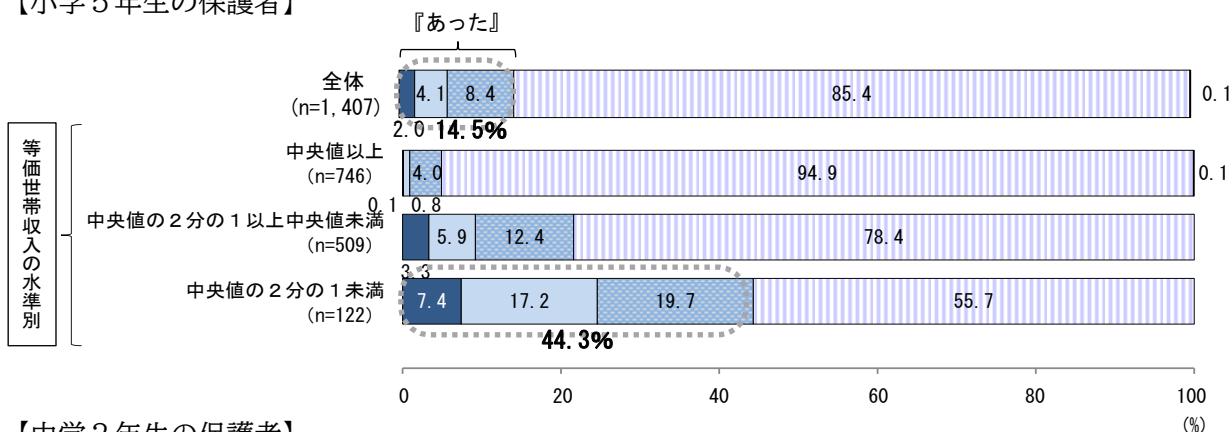


【中学 2 年生の保護者】

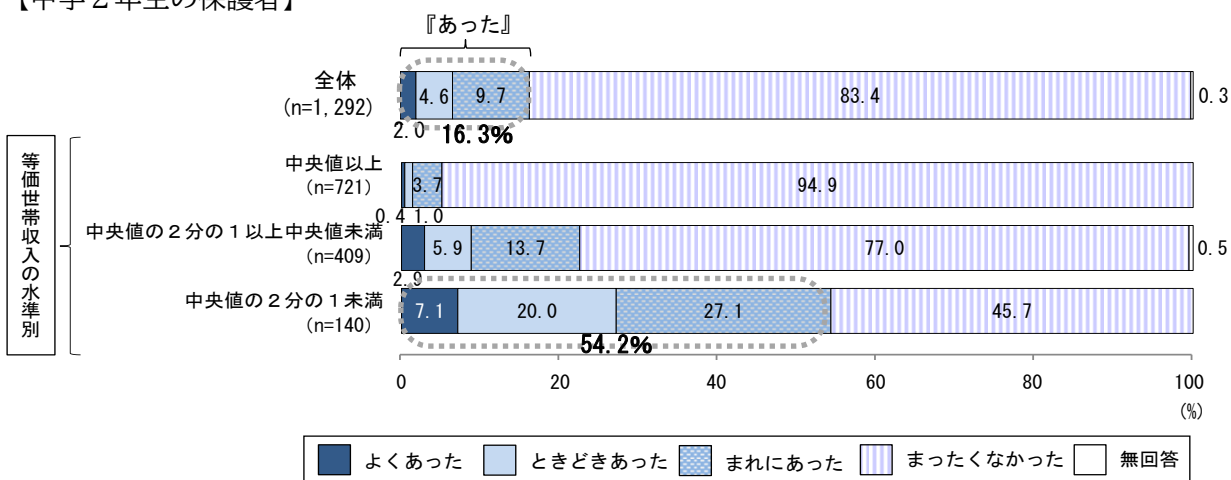


<グラフ③ 過去1年間に経済的な理由で衣服が買えなかった経験>

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】

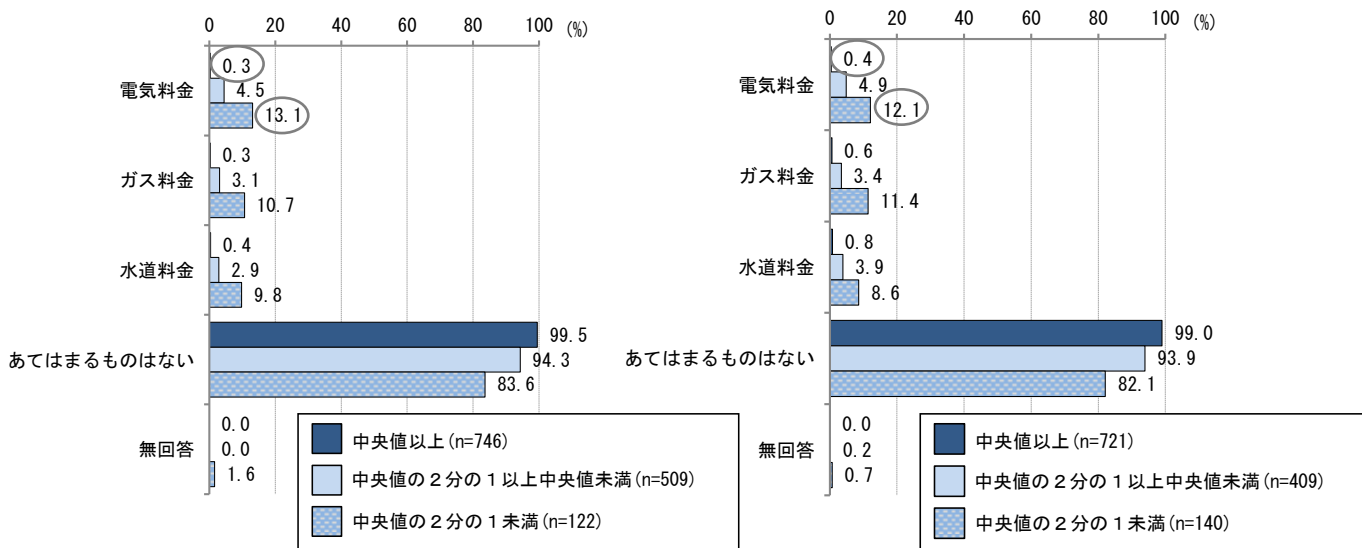


過去1年間に経済的な理由で公共料金が未払いになった経験について、『電気料金』が未払いになったことがあると回答した割合は、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯では、小学5年生の保護者で0.3%、中学2年生の保護者で0.4%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生の保護者で13.1%、中学2年生の保護者で12.1%と、等価世帯収入の水準が低くなるほど『電気料金』が未払いになった経験がある保護者の割合が高くなっており、『ガス料金』や『水道料金』についても同様の傾向がみられる(グラフ④)。

<グラフ④ 過去1年間に経済的な理由で公共料金が未払いになった経験>(複数回答)

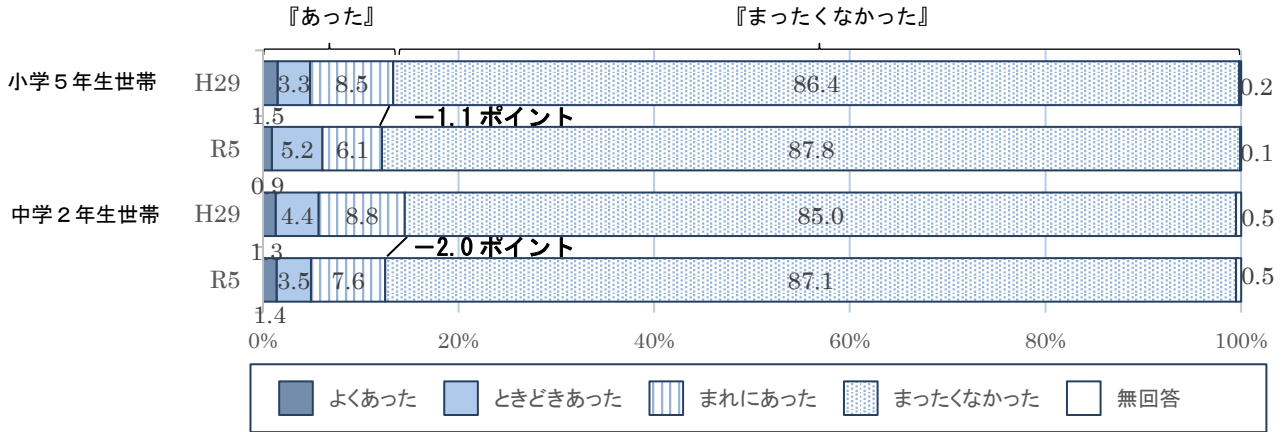
【小学5年生の保護者】

【中学2年生の保護者】

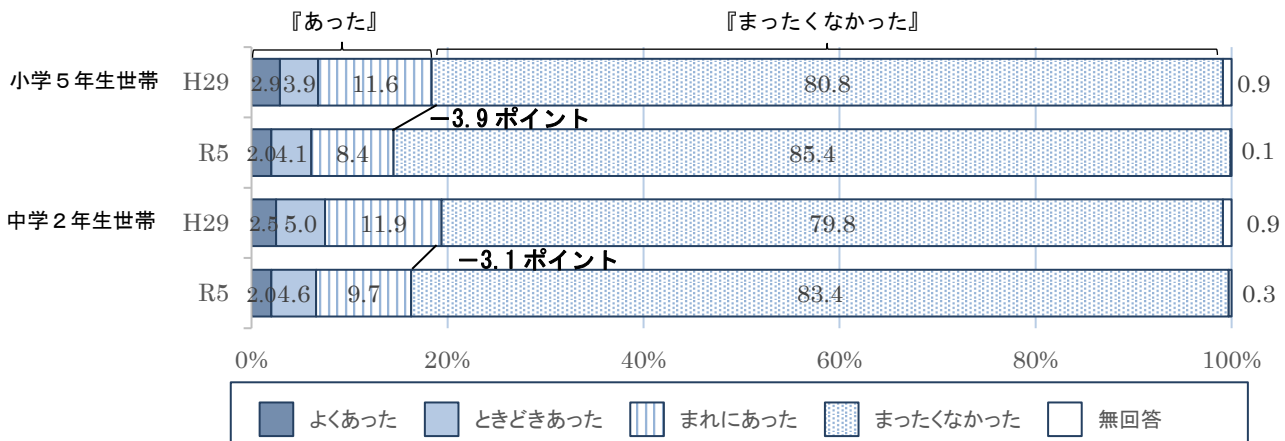


(参考) 本調査と平成 29 年度調査の結果を比較すると、食料や衣服が買えなかった経験があると回答した割合は、小学 5 年生世帯、中学 2 年生世帯ともにやや減少した。一方、公共料金が未払いになった経験があると回答した割合は、小学 5 年生世帯ではやや減少しているのに対し、中学 2 年生世帯ではやや増加している。

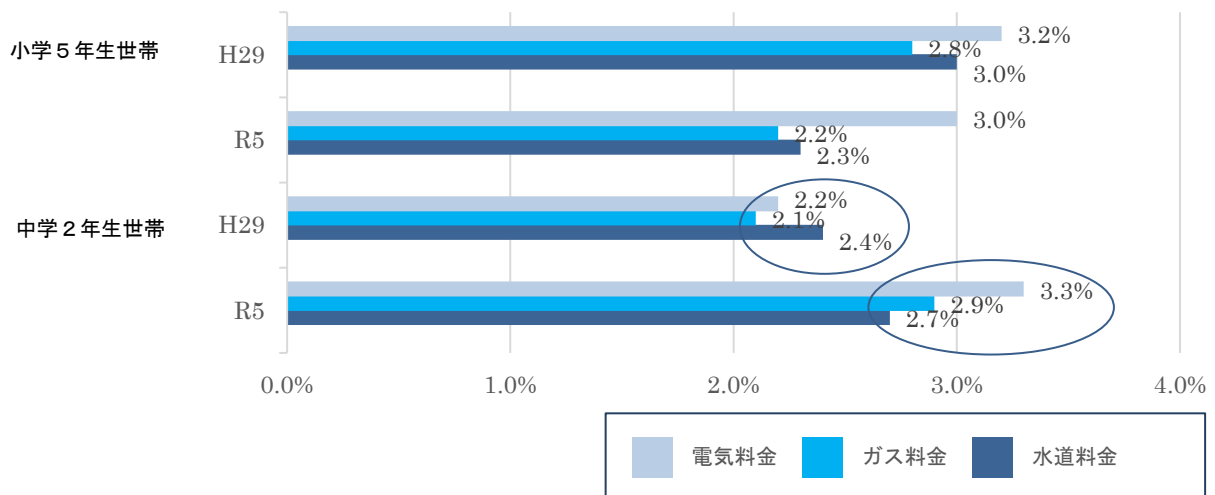
【過去 1 年間に経済的な理由で食料が買えなかった経験】



【過去 1 年間に経済的な理由で衣服が買えなかった経験】



【過去 1 年間に経済的な理由で公共料金が未払いになった経験】



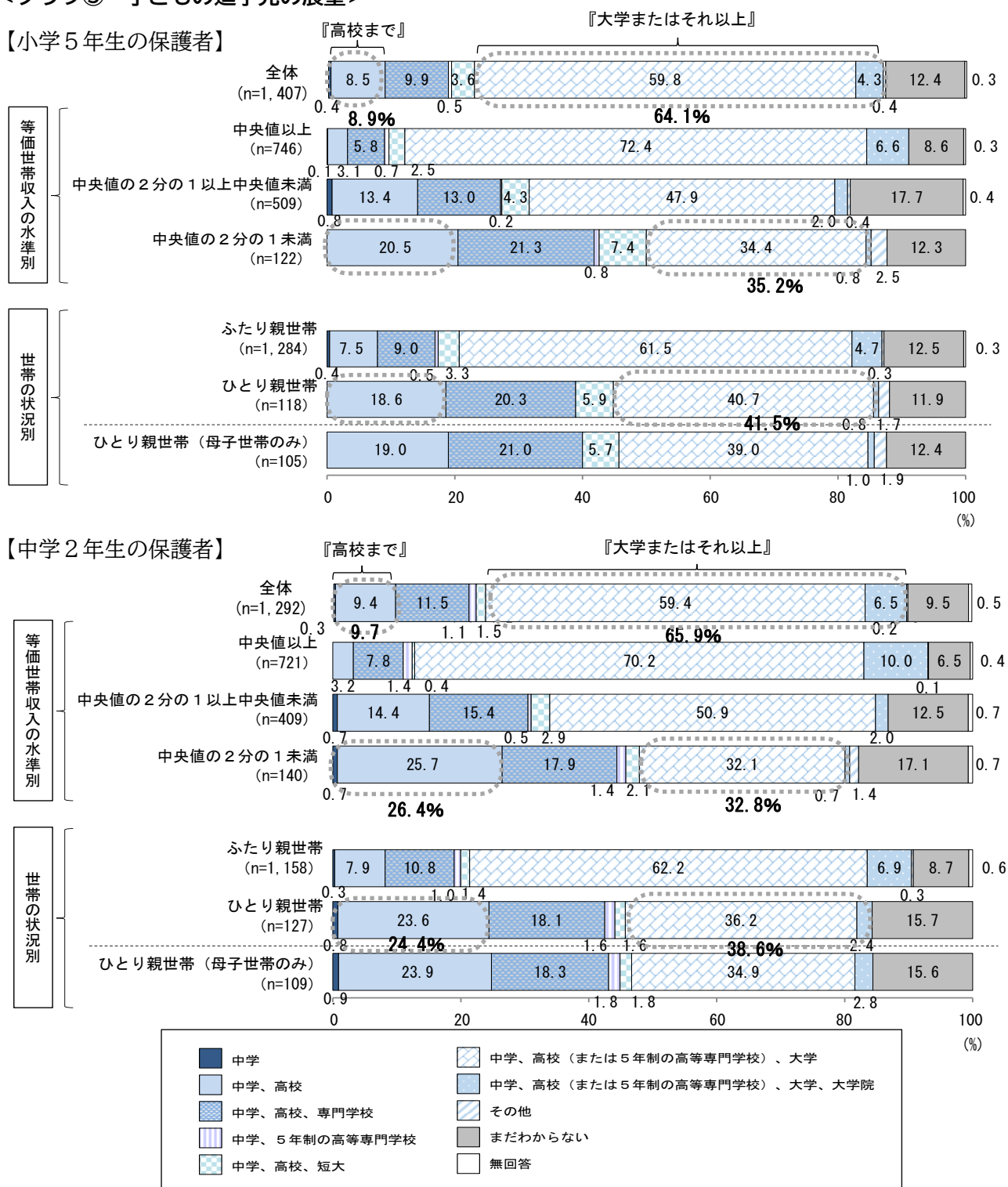
3 保護者の状況

(1) 子どもの進学先の展望

保護者が、子どもの進学先の展望として『大学またはそれ以上』に進学すると思うと回答した割合は、小学5年生の保護者全体で64.1%、中学2年生の保護者全体で65.9%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生の保護者で35.2%、中学2年生の保護者で32.8%、ひとり親世帯では、小学5年生の保護者で41.5%、中学2年生の保護者で38.6%と低くなっている。

また、『高校まで』と回答した割合は、小学5年生の保護者全体で8.9%、中学2年生の保護者全体で9.7%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生の保護者で20.5%、中学2年生の保護者で26.4%、ひとり親世帯では、小学5年生の保護者で18.6%、中学2年生の保護者で24.4%と高くなっている（グラフ⑤）。

<グラフ⑤ 子どもの進学先の展望>

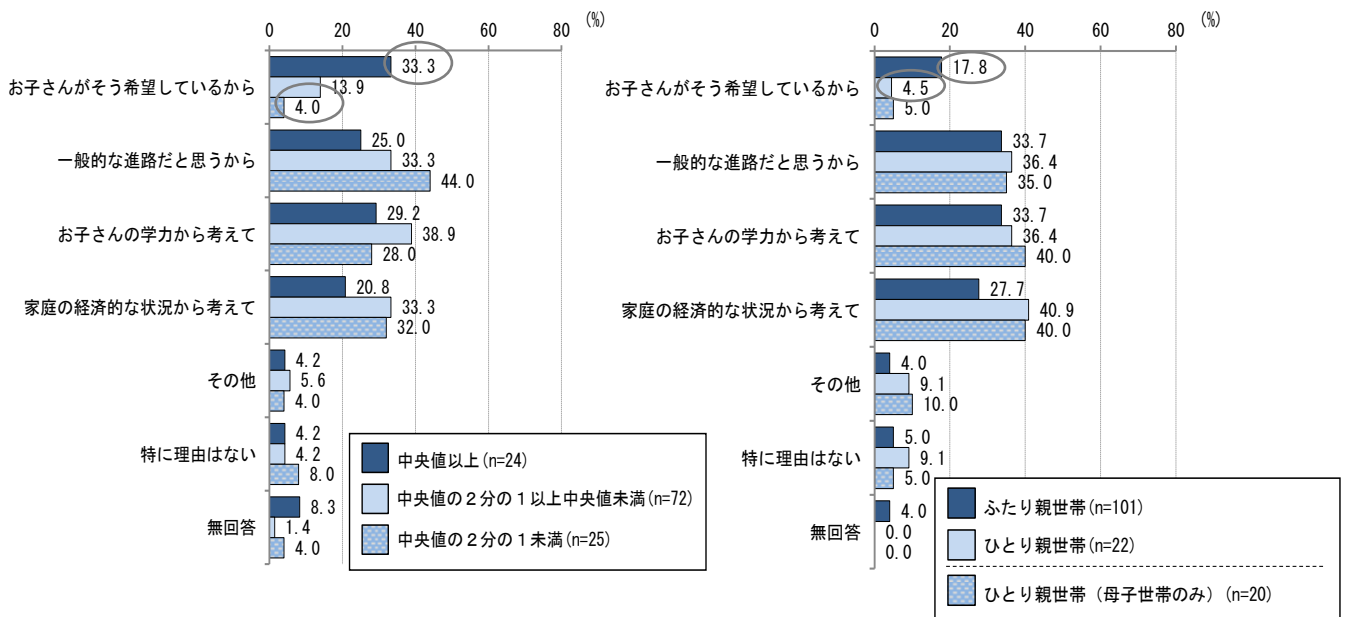


子どもの進学先の展望を『高校まで』と考える理由について、小学5年生の保護者では、『お子さんがそう希望しているから』と回答した割合が、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯で33.3%であるのに対し、「中央値の2分の1未満」の世帯で4.0%と大きな差がみられる。また、ふたり親世帯とひとり親世帯でも大きな差がみられる。

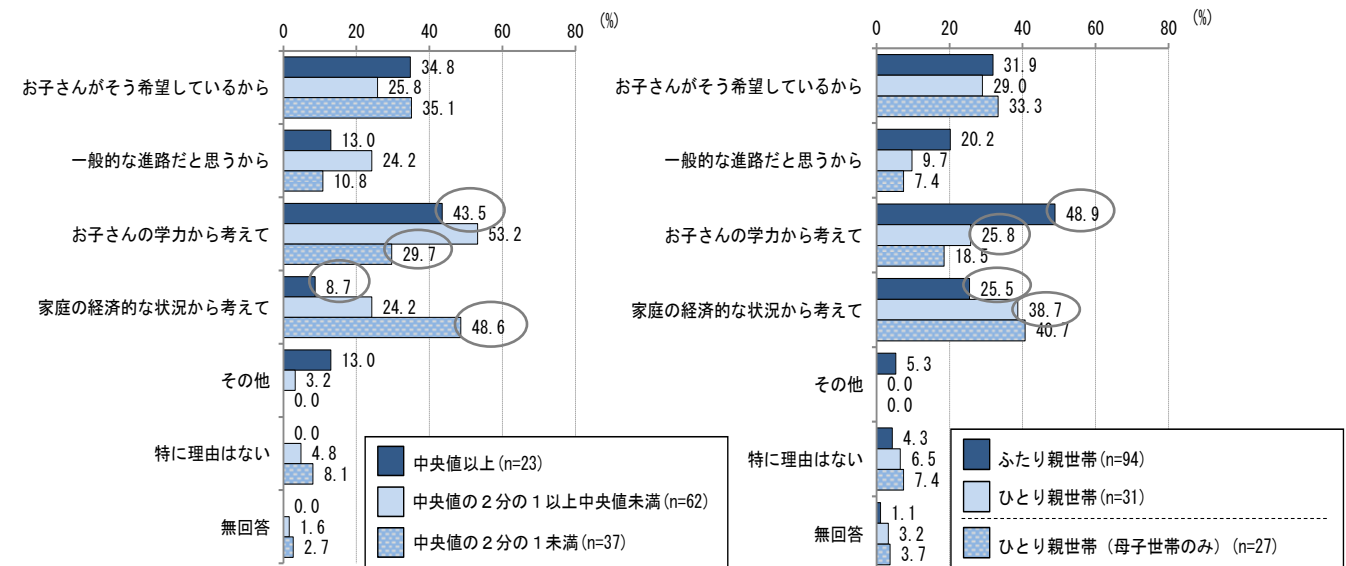
中学2年生の保護者では、『家庭の経済的な状況から考えて』と回答した割合が、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯で8.7%であるのに対し、「中央値の2分の1未満」の世帯で48.6%と大きな差がみられる。また、『お子さんの学力から考えて』と回答した割合が、「中央値以上」の世帯では43.5%であるのに対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では29.7%と低くなっている。これらの傾向は、ふたり親世帯とひとり親世帯を比較しても同様となっている（グラフ⑥）。

<グラフ⑥ 子どもが「高校まで」進学すると考える理由>（複数回答）

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】

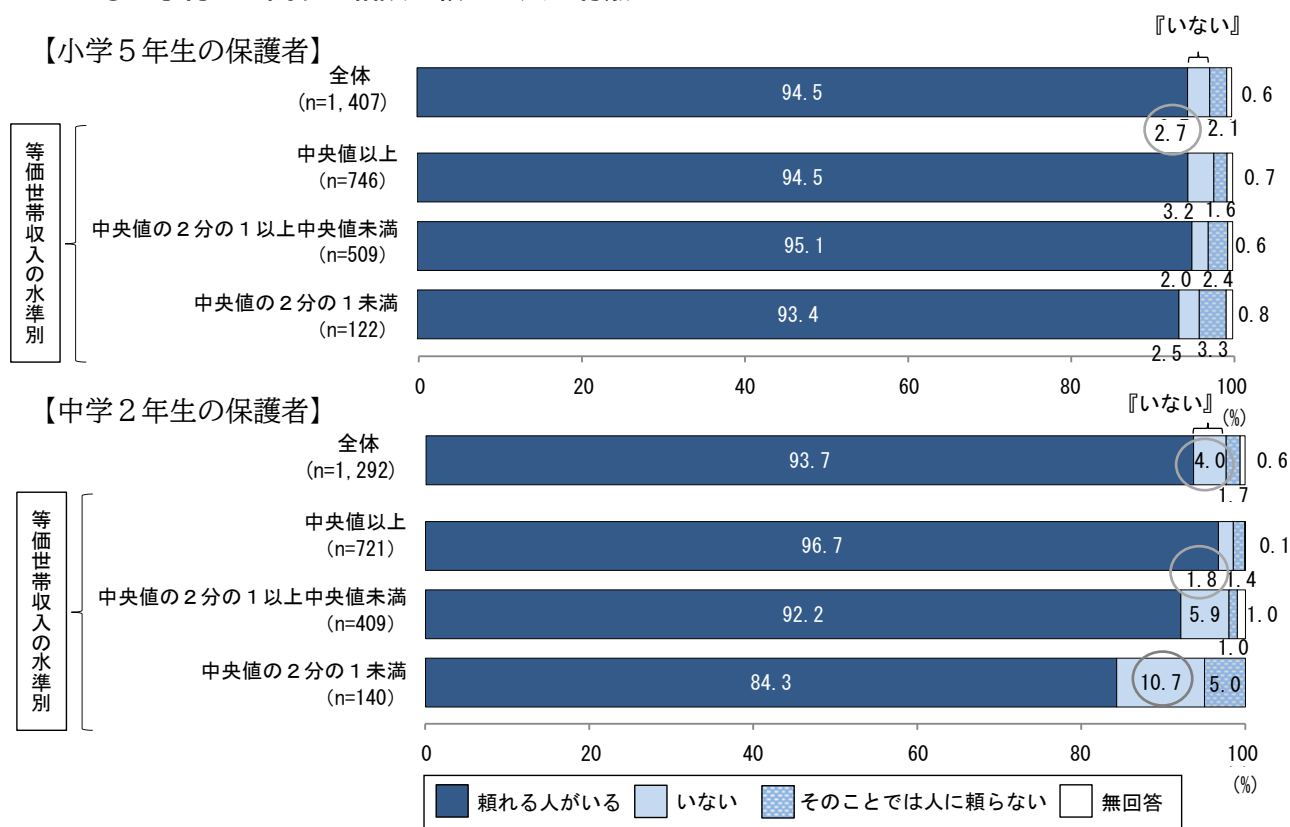


(2) 頼れる人の有無

子育てに関する相談で頼れる人が『いない』と回答した割合は、小学5年生の保護者全体で2.7%、中学2年生の保護者全体で4.0%となっている。中学2年生の保護者では、頼れる人が『いない』と回答した割合が、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯で1.8%であるのに対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では10.7%となっており、等価世帯収入の水準が低くなるほど頼れる人が『いない』と回答した割合が高くなっている（グラフ⑦）。

また、小学5年生の保護者では、子育てに関する相談で頼れる人がいない保護者は、生活への満足度が低くなっている（グラフ⑧）。

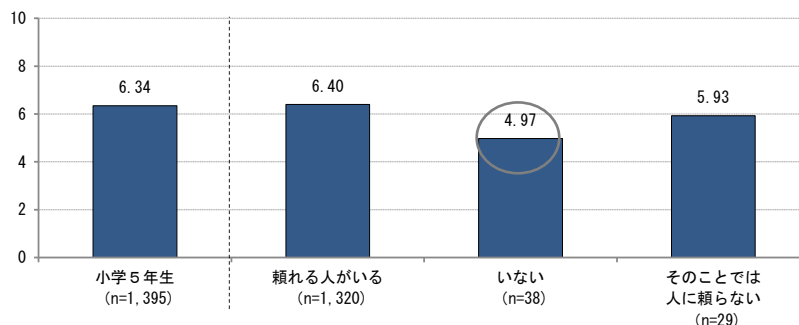
<グラフ⑦ 子育てに関する相談で頼れる人の有無>



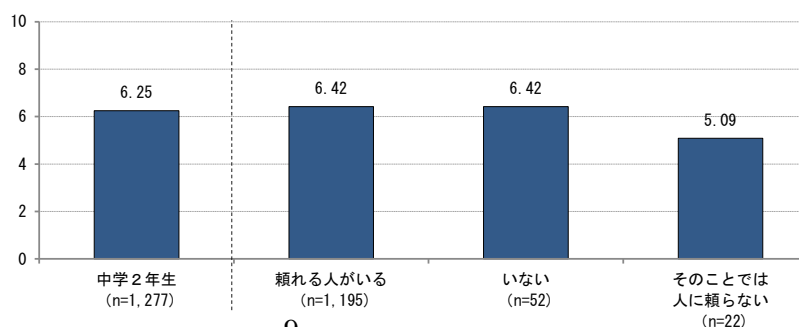
<グラフ⑧ 子育てに関する相談で頼れる人の有無別の生活満足度>

※ 最近の生活にどれくらい満足しているかを、「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）までの数字で回答

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】



(3) 心理的な状態

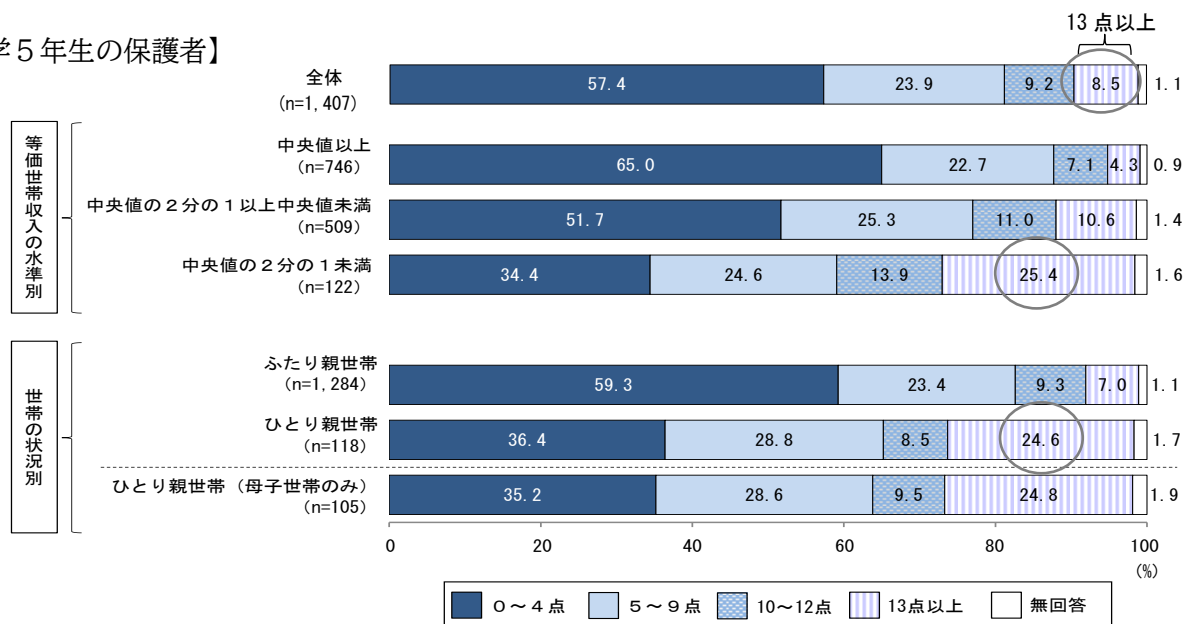
本調査では、内閣府調査と同様に、「保護者の心理的な状態」に関して、次の6つの質問（この1か月の気持ち）ごとに、「まったくない」0点、「少しだけ」1点、「ときどき」2点、「たいてい」3点、「いつも」4点を振り、その合計（0点から24点）を計算した。スコアが高くなるほど抑うつ状態が強いことを示しており、13点以上を「うつ・不安障害相当」と考えられるものとした。

- a. 神経過敏に感じた
- b. 絶望的だと感じた
- c. そわそわ、落ち着かなく感じた
- d. 気分が沈み込んで、何が起ころってても気が晴れないように感じた
- e. 何をするのも面倒だと感じた
- f. 自分は価値のない人間だと感じた

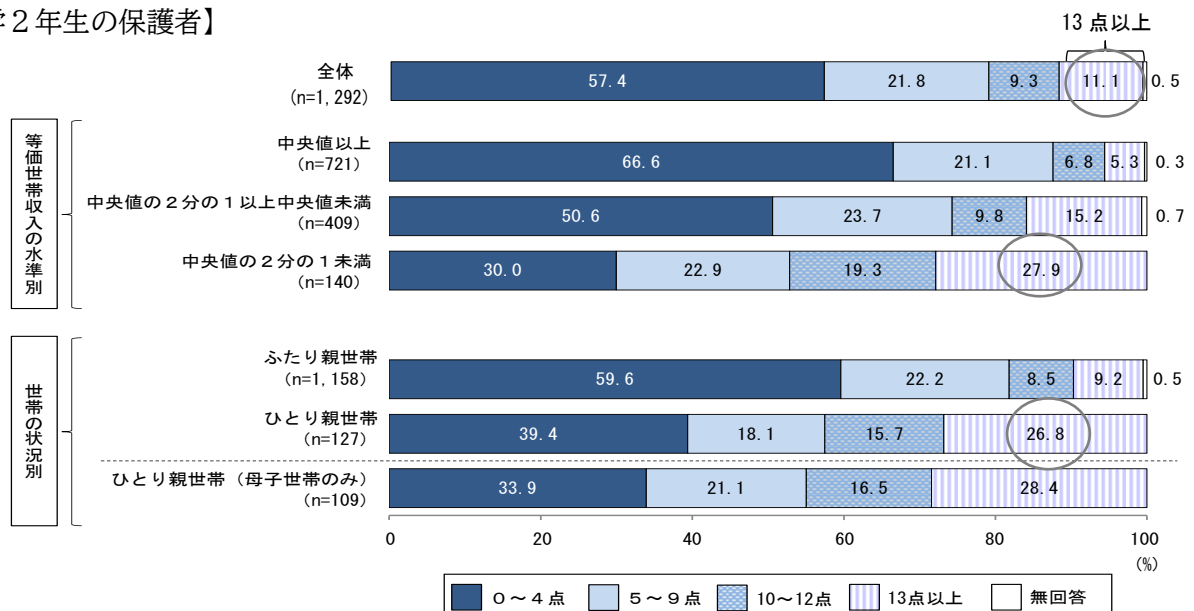
保護者の心理的な状態について、「うつ・不安障害相当」と考えられる割合は、小学5年生の保護者全体で8.5%、中学2年生の保護者全体で11.1%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生の保護者で25.4%、中学2年生の保護者で27.9%、ひとり親世帯では、小学5年生の保護者で24.6%、中学2年生の保護者で26.8%と高くなっている（グラフ⑨）。

<グラフ⑨ 保護者の心理的な状態>

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】

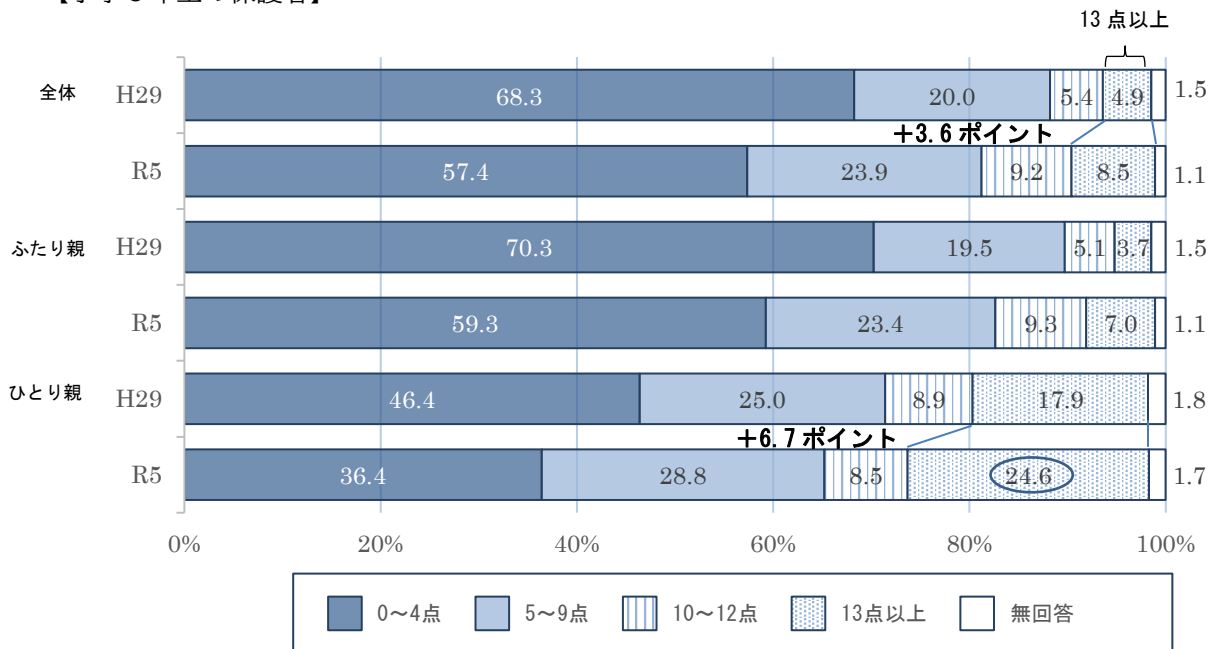


(参考) 保護者の心理的な状態について、本調査と平成 29 年度調査の結果を比較すると、「うつ・不安障害相当」と考えられる割合が、小学 5 年生の保護者全体で 3.6 ポイント、中学 2 年生の保護者全体で 4.2 ポイント増加している。ひとり親世帯では、小学 5 年生の保護者で 6.7 ポイント、中学 2 年生の保護者で 11.0 ポイントと全体よりも増加幅が大きくなっており、「うつ・不安障害相当」と考えられる割合が 20%以上と高くなっている。

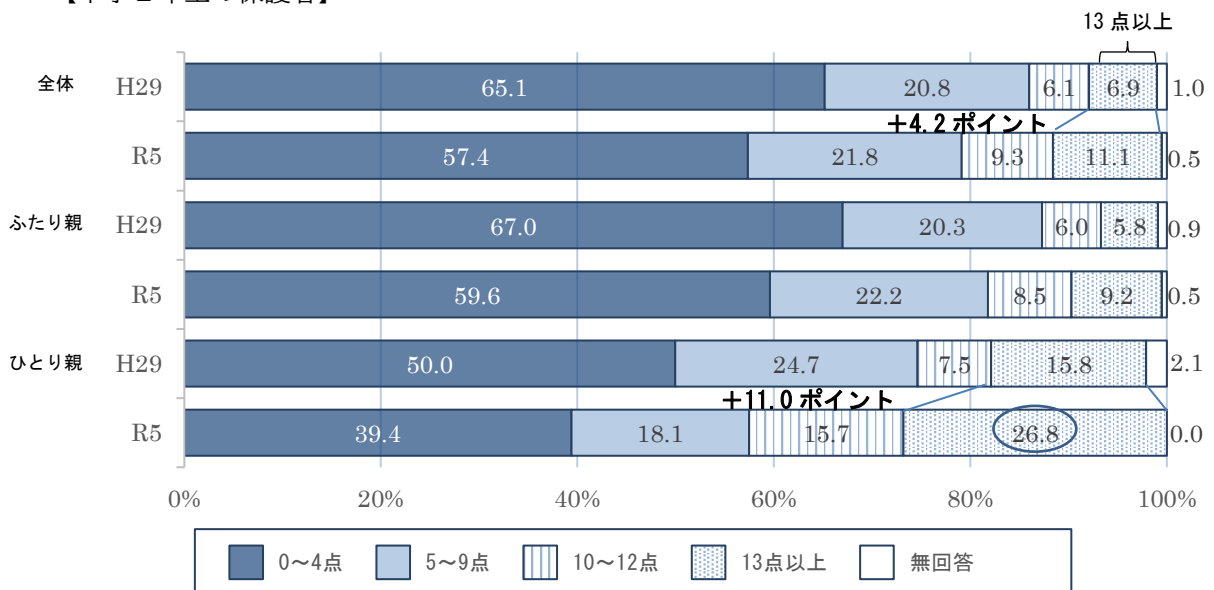
また、次頁のとおり、暮らしの状況が『苦しい』と回答した世帯でも、「うつ・不安障害相当」と考えられる割合が、小学 5 年生の保護者で 10.1 ポイント、中学 2 年生の保護者で 15.8 ポイント増加し、「うつ・不安障害相当」と考えられる割合が 20%以上と高くなっている。

<保護者の心理的な状態（世帯状況別）>

【小学 5 年生の保護者】

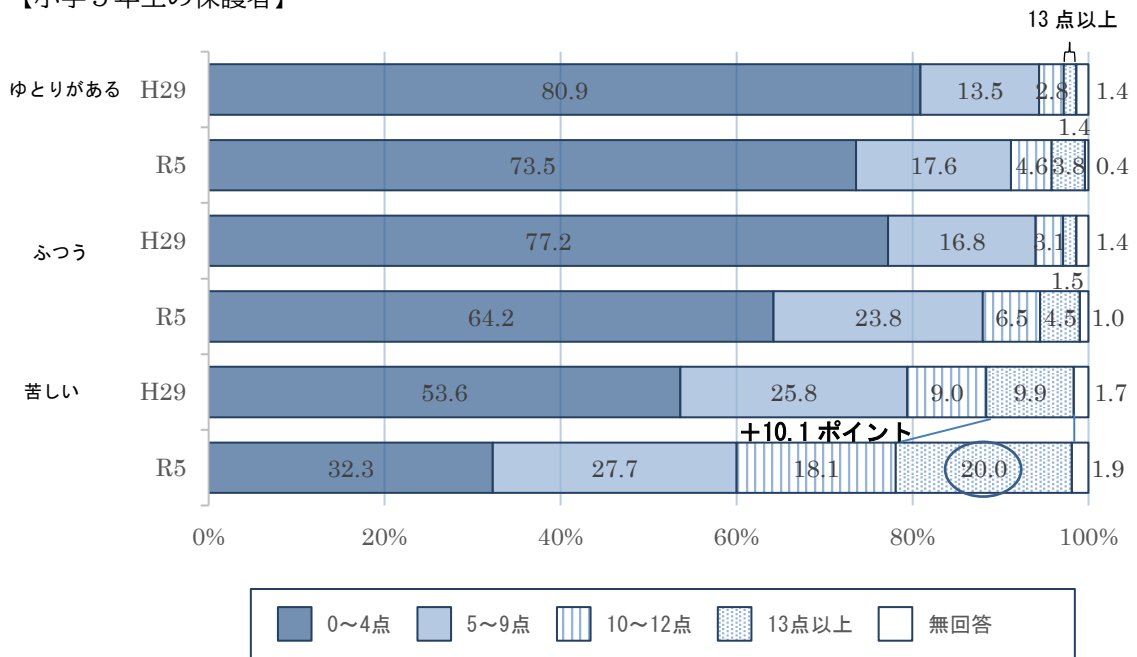


【中学 2 年生の保護者】

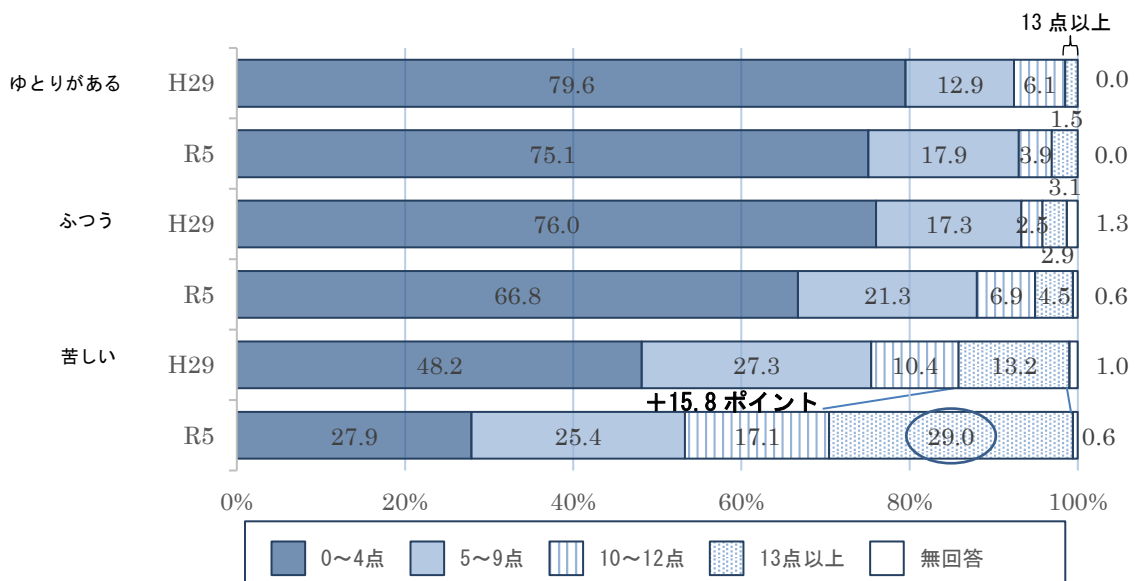


<保護者の心理的な状態（暮らしの状況別）>

【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】



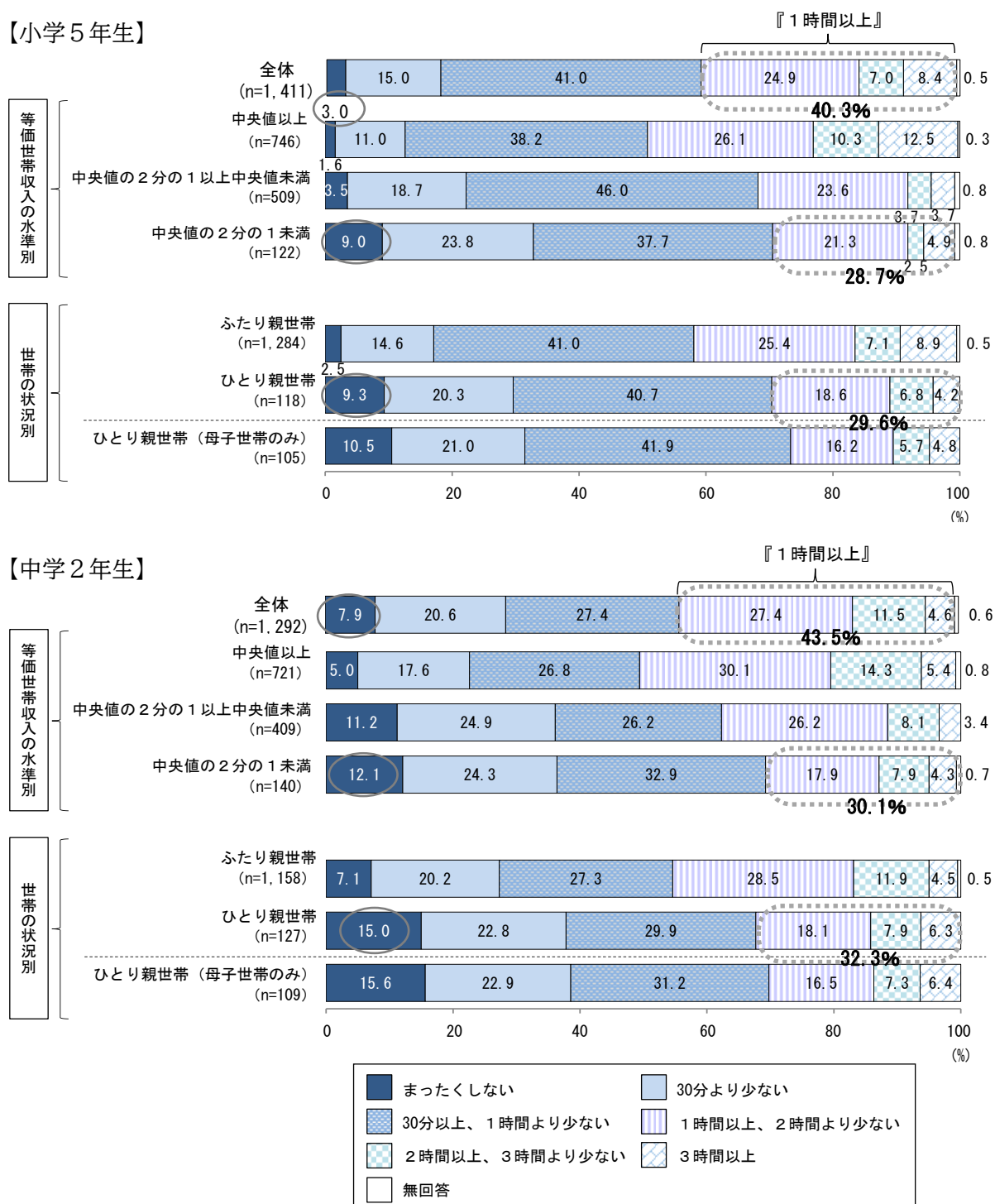
4 子どもの状況

(1) 学習の状況

学校がある日（月～金曜日）における学校の授業以外での1日当たりの勉強時間について、『1時間以上』と回答した割合は、小学5年生全体で40.3%、中学2年生全体で43.5%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯やひとり親世帯では、28.7～32.3%と低く、勉強時間が短くなっている。また、『まったくしない』と回答した割合が、小学5年生全体で3.0%、中学2年生全体で7.9%であるのに対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生で9.0%、中学2年生で12.1%、ひとり親世帯では、小学5年生で9.3%、中学2年生で15.0%と高くなっている（グラフ⑩）。

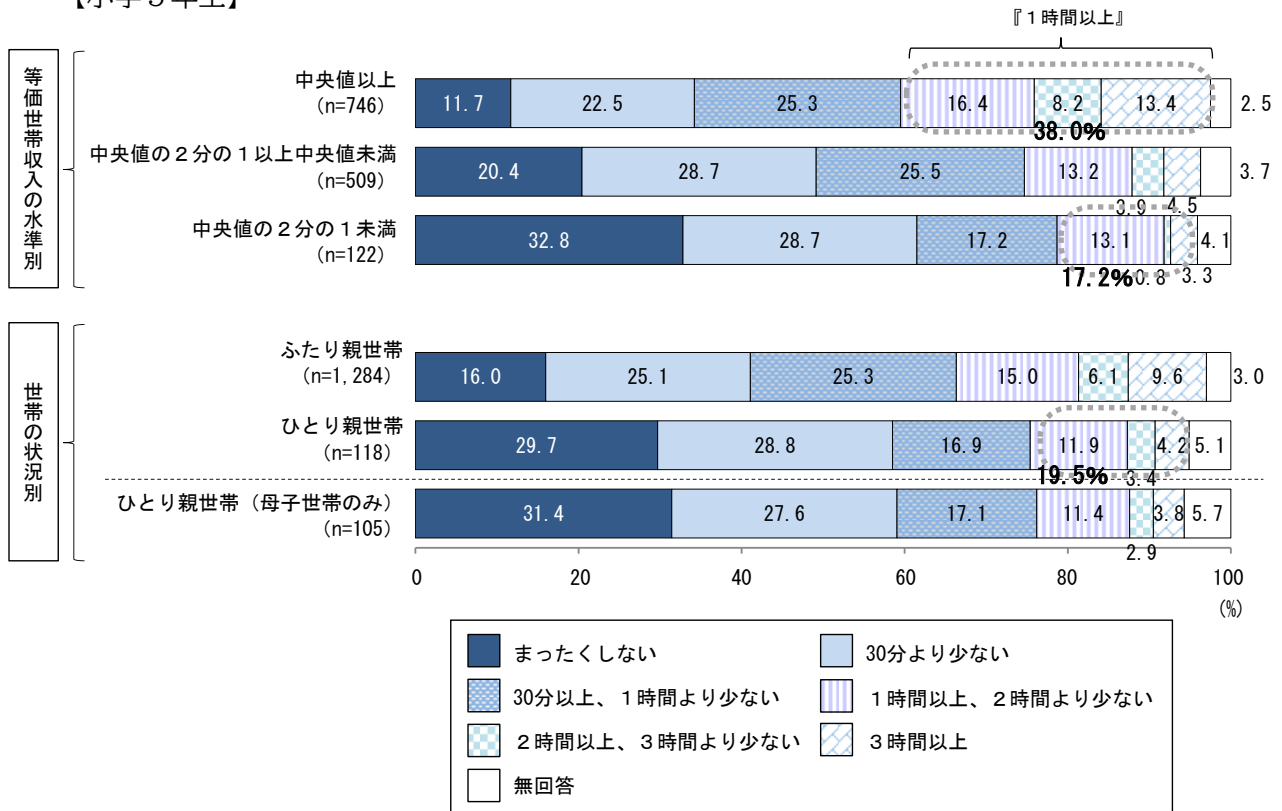
次頁の学校がない日（土曜日・日曜日・祝日）の勉強時間についても同様の傾向がみられる（グラフ⑪）。

<グラフ⑩ 学校の授業以外での1日当たりの勉強時間（学校がある日）>

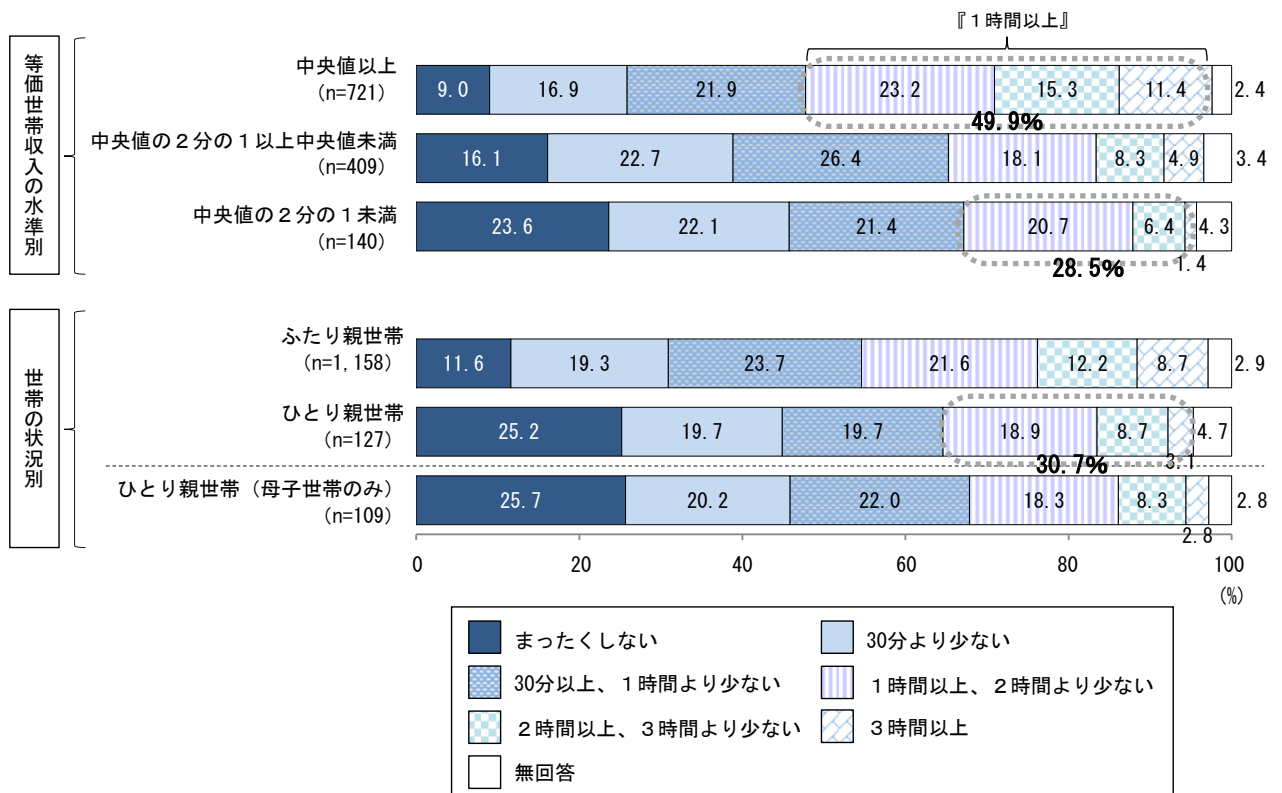


<グラフ⑪ 学校の授業以外での1日当たりの勉強時間（学校がない日）>

【小学5年生】

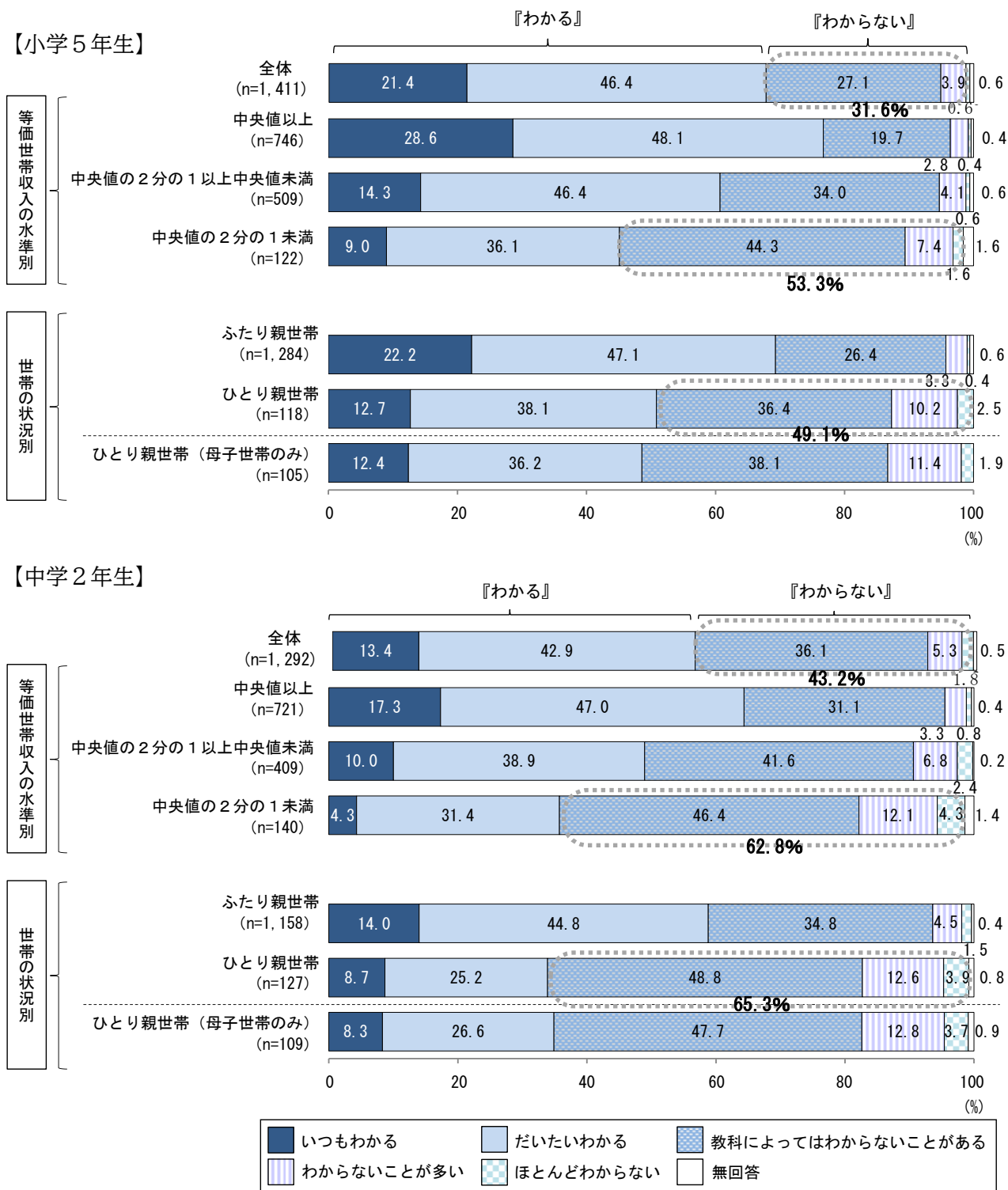


【中学2年生】



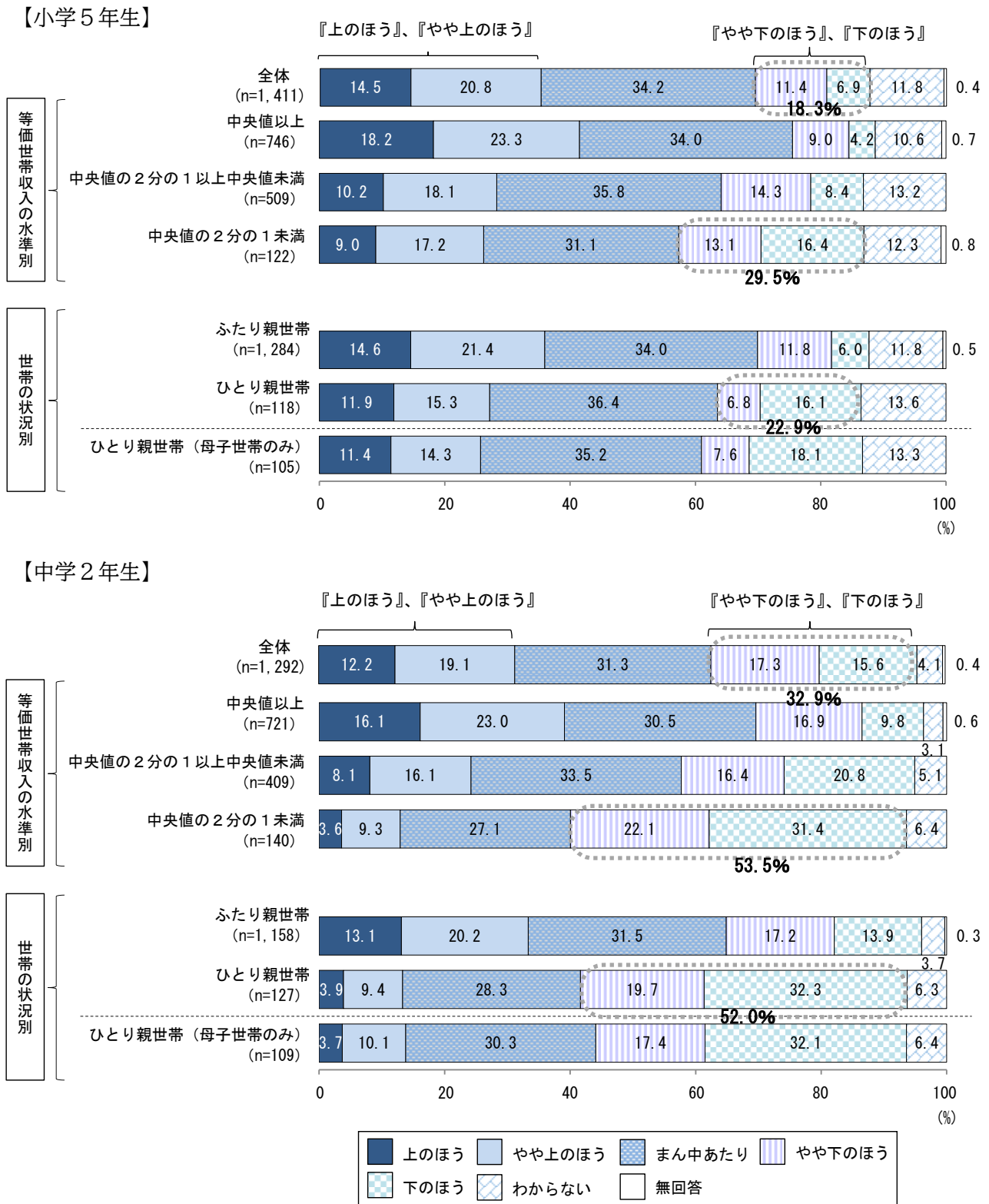
学校の授業が『わからない』と回答した割合（『教科によってはわからないことがある』を含む。）は、小学5年生全体で31.6%、中学2年生全体で43.2%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生で53.3%、中学2年生で62.8%、ひとり親世帯では、小学5年生で49.1%、中学2年生で65.3%となっており、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、授業の理解度が低くなっている（グラフ⑫）。

<グラフ⑫ 学校の授業の理解度>



子ども自身によるクラスの中での成績評価について、『やや下のほう』又は『下のほう』と回答した割合は、小学5年生全体で 18.3%、中学2年生全体で 32.9%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生で 29.5%、中学2年生で 53.5%、ひとり親世帯では、小学5年生で 22.9%、中学2年生で 52.0%となっており、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、自分自身による成績評価が低くなっており、特に中学2年生で顕著となっている（グラフ⑬）。

<グラフ⑬ 子ども自身によるクラスの中での成績評価>



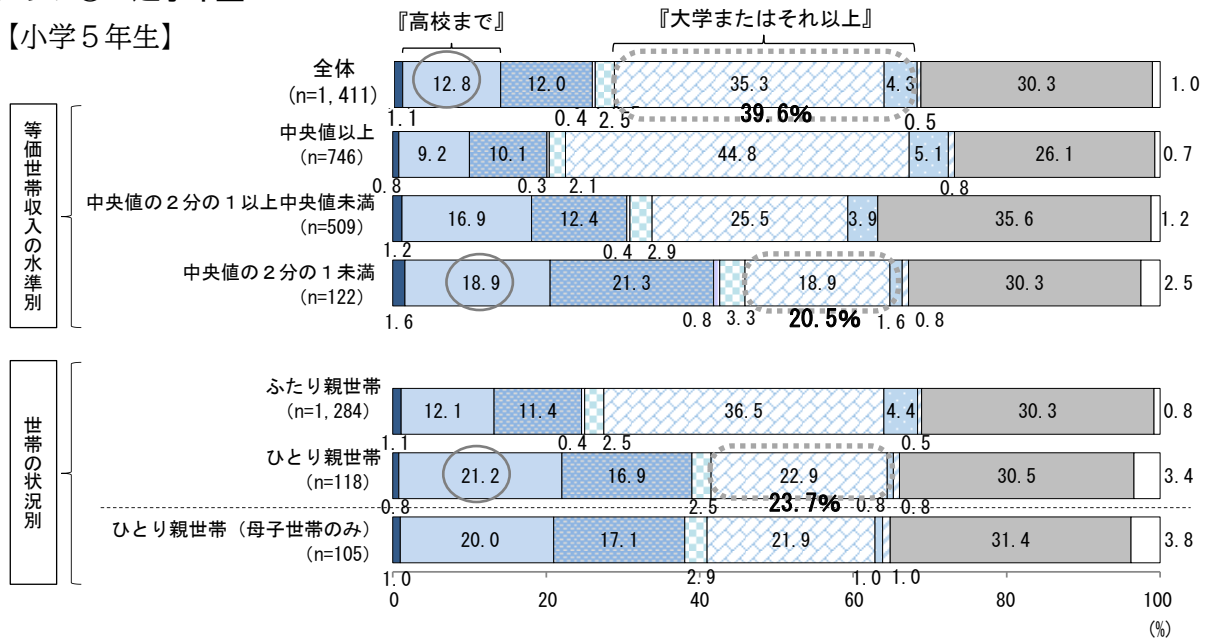
(2) 進学希望

子ども自身の進学希望について、将来、『大学またはそれ以上』に進学を希望する子どもの割合は、小学5年生全体で39.6%、中学2年生全体で46.5%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生で20.5%、中学2年生で22.8%、ひとり親世帯では、小学5年生で23.7%、中学2年生で28.4%と低くなっている。

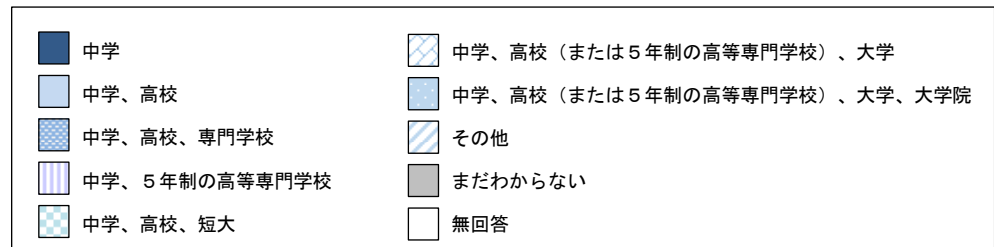
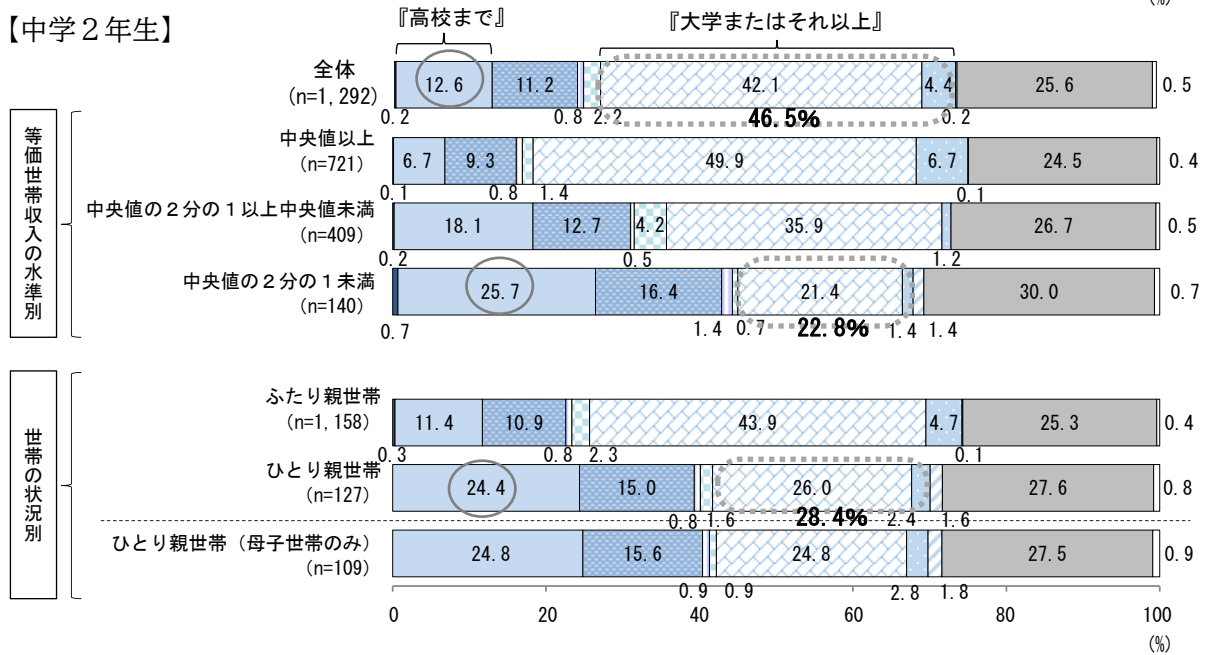
また、『高校まで』を希望する子どもの割合は、小学5年生全体で12.8%、中学2年生全体で12.6%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生で18.9%、中学2年生で25.7%、ひとり親世帯では、小学5年生で21.2%、中学2年生で24.4%と高くなっている（グラフ⑭）。

<グラフ⑭ 進学希望>

【小学5年生】



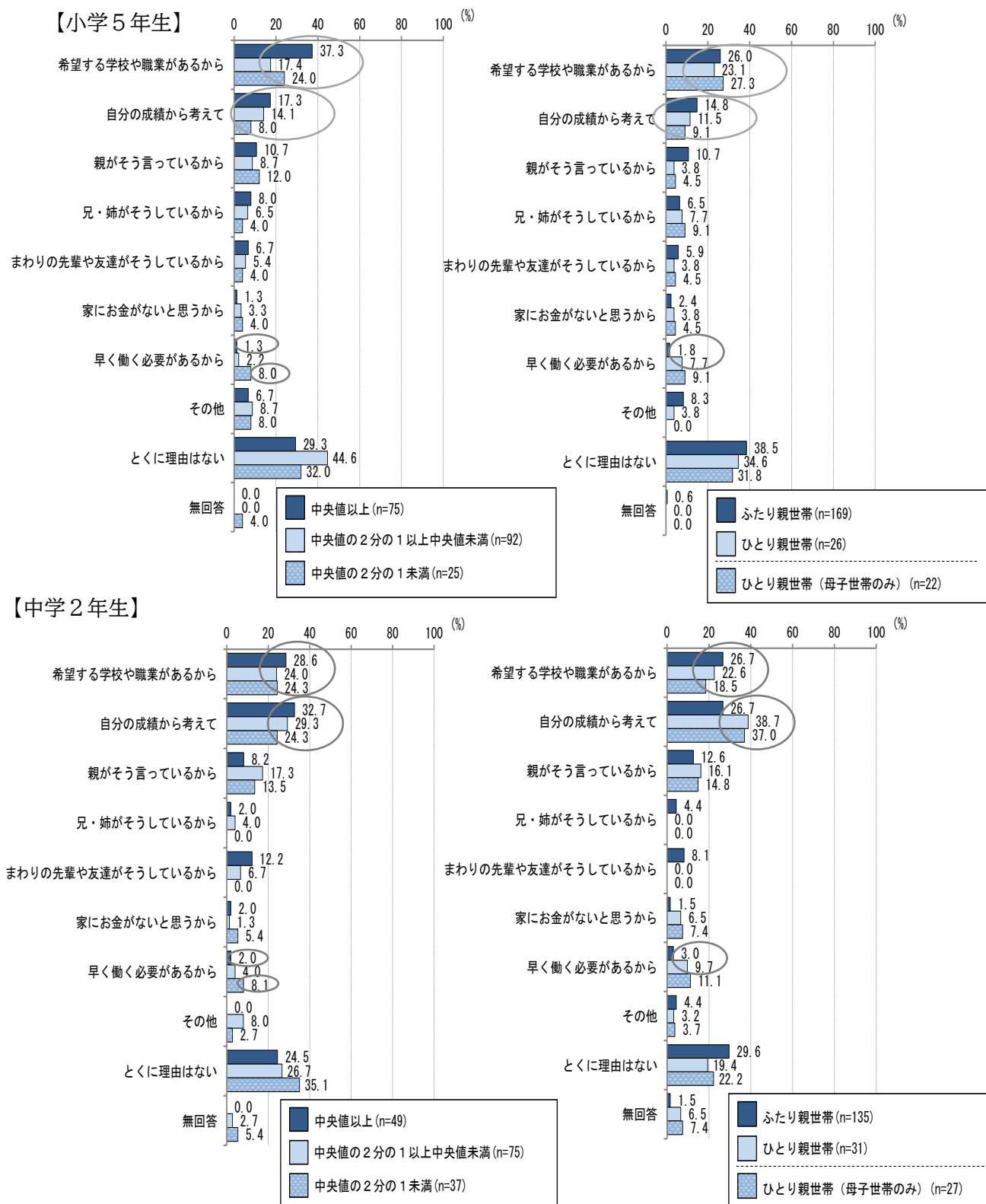
【中学2年生】



子ども自身が『高校まで』の進学を希望する理由について、小学5年生、中学2年生ともに、『希望する学校や職業があるから』や『自分の成績から考えて』と回答した割合が高い。

『早く働く必要があるから』と回答した割合については、小学5年生では、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯で1.3%であるのに対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では8.0%と高くなっている。中学2年生では、「中央値以上」の世帯で2.0%であるのに対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では8.1%と高くなっている。また、小学5年生、中学2年生ともにひとり親世帯がふたり親世帯より高くなっている（グラフ⑮）。

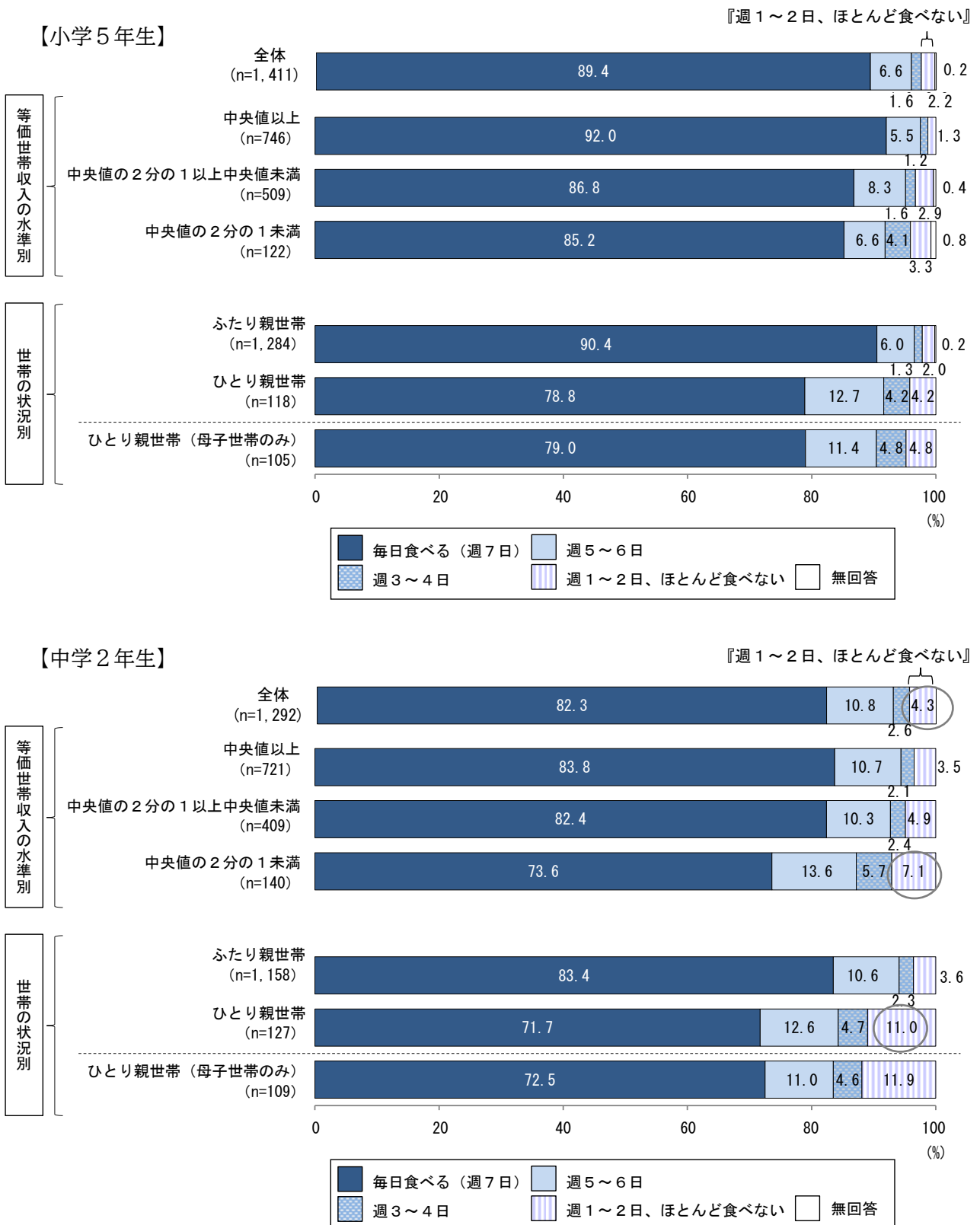
<グラフ⑮ 「高校まで」の進学を希望する理由>



(3) 生活習慣

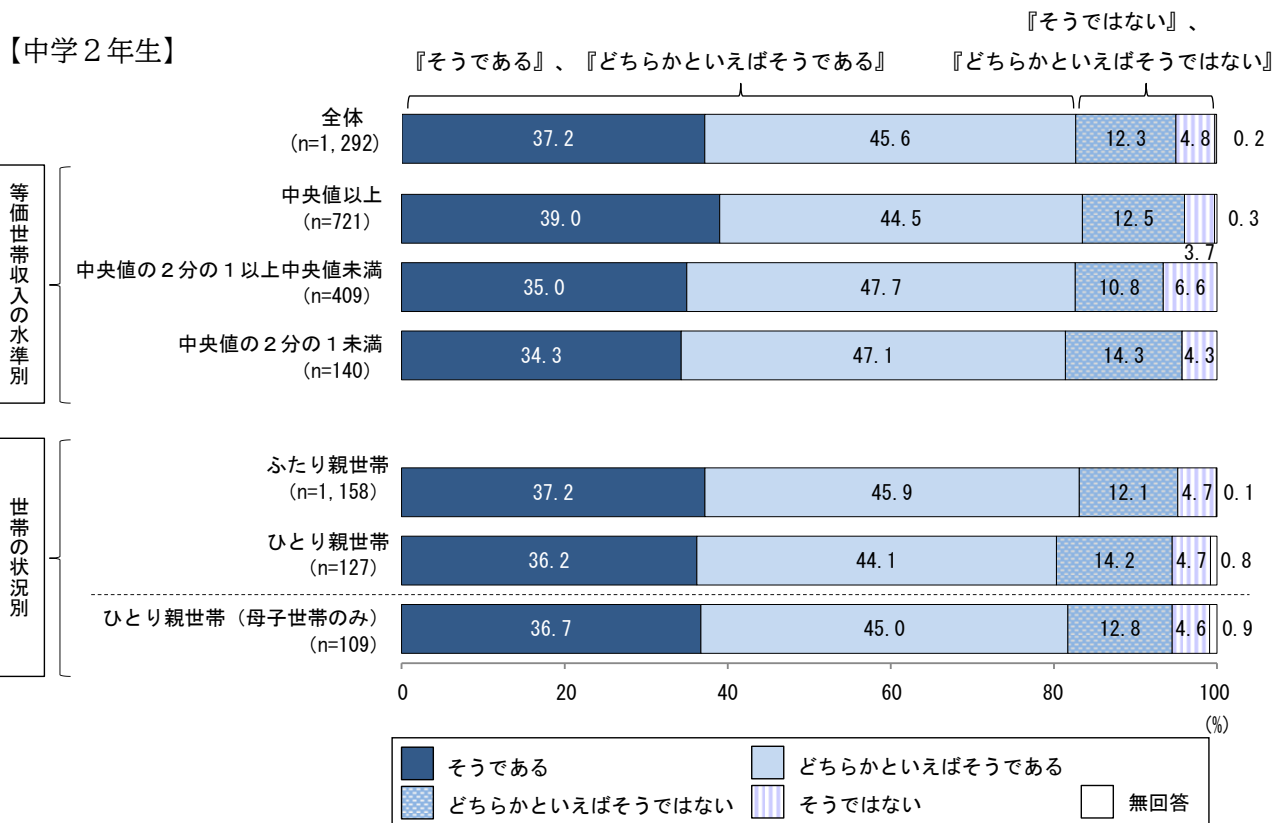
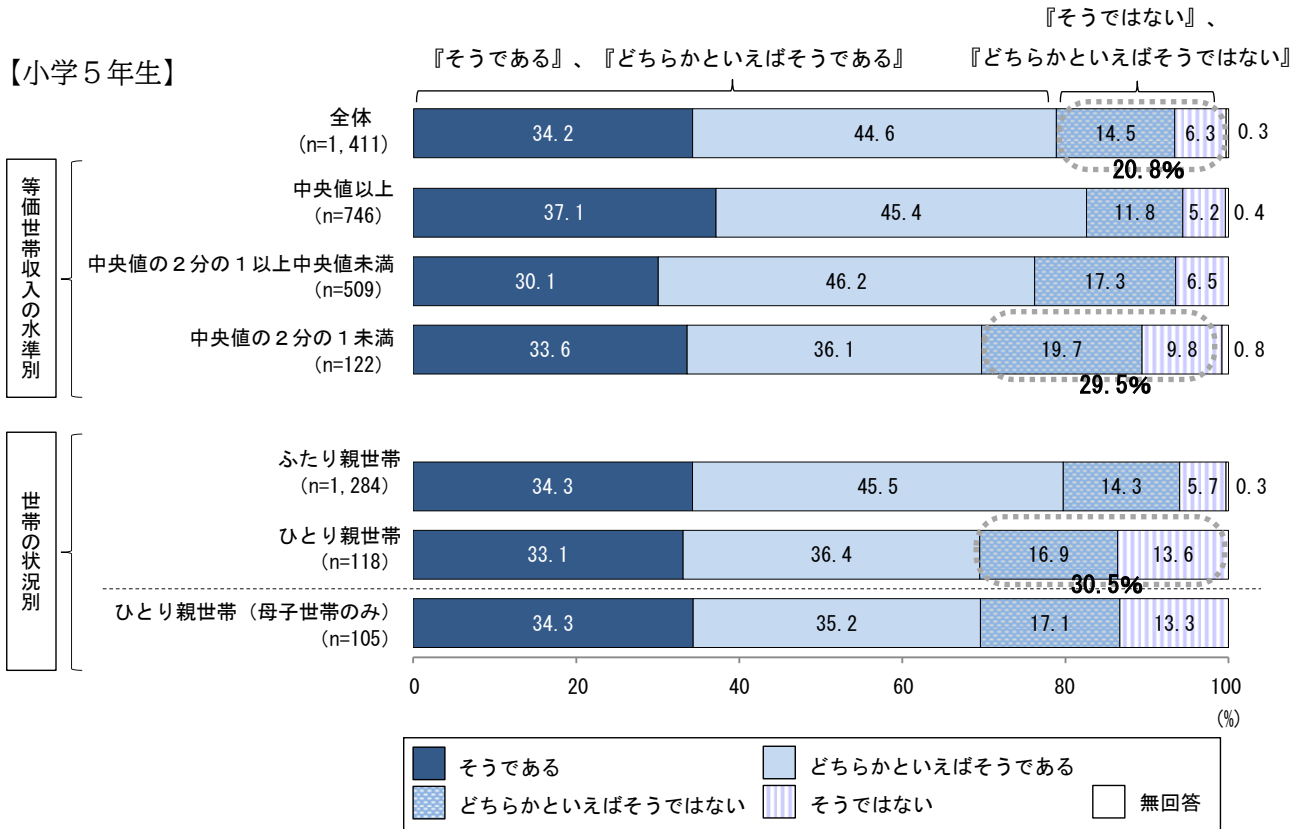
子どもの生活習慣について、朝食をとる頻度が『週1～2日、ほとんど食べない』と回答した割合は、小学5年生よりも中学2年生で等価世帯収入の水準や世帯の状況による差が大きくなっており、中学2年生全体で4.3%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では7.1%、ひとり親世帯では11.0%と、朝食をとる頻度が少ない割合が高くなっている（グラフ⑯）。

<グラフ⑯ 朝食をとる頻度>



平日にほぼ同じ時間に寝ているかとの質問に対し、『そうではない』又は『どちらかといえばそうではない』と回答した割合は、中学2年生よりも小学5年生で等価世帯収入の水準や世帯の状況による差が大きくなっており、小学5年生全体で20.8%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では29.5%、ひとり親世帯では30.5%と、平日にほぼ同じ時間には寝ていない割合が高くなっている（グラフ⑰）。

<グラフ⑰ 平日の就寝時間（平日にほぼ同じ時間に寝ているか）>



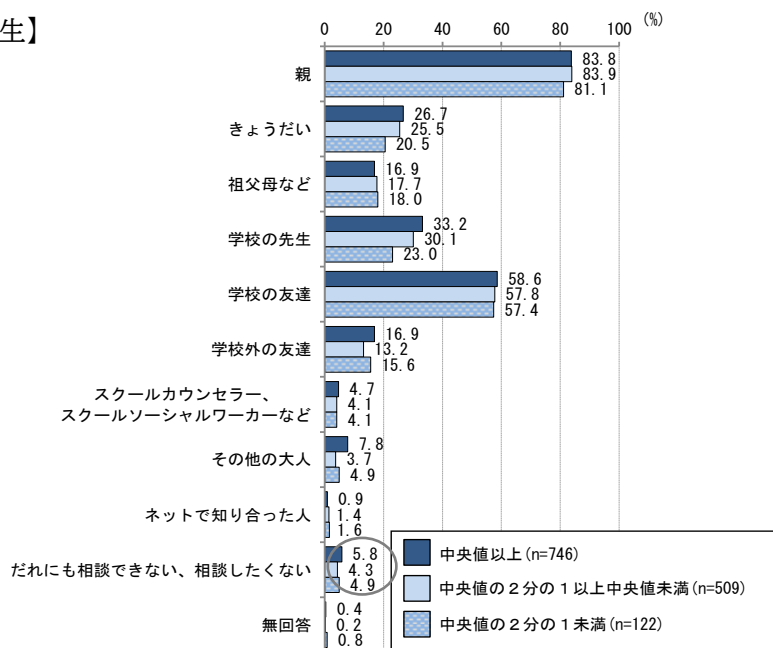
(4) 悩みごとの相談先

困っていることや悩みごとの子どもの相談先について、『だれにも相談できない、相談したくない』と回答した割合は、等価世帯収入の水準による大きな差はみられない（グラフ⑱）。

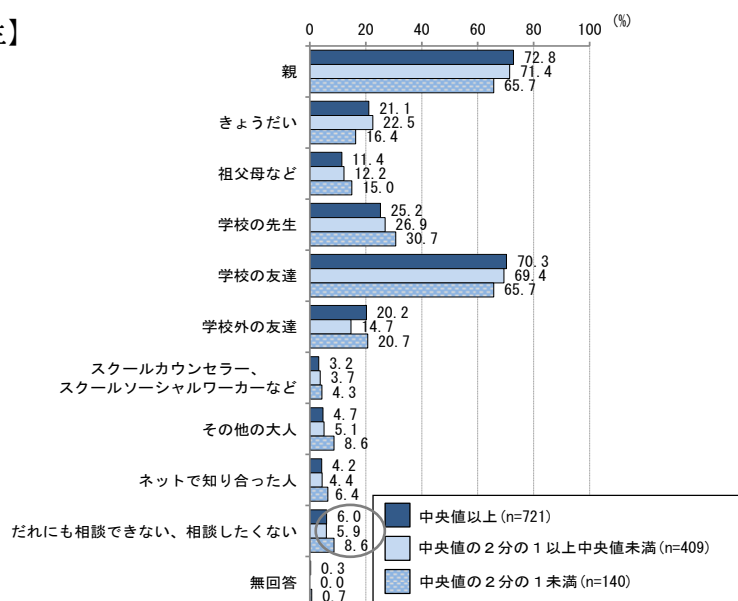
また、『だれにも相談できない、相談したくない』と回答した子どもは、生活への満足度が低くなっている（グラフ⑲）。

<グラフ⑱ 困っていることや悩みごとがあるとき、相談できると思う人>（複数回答）

【小学5年生】



【中学2年生】

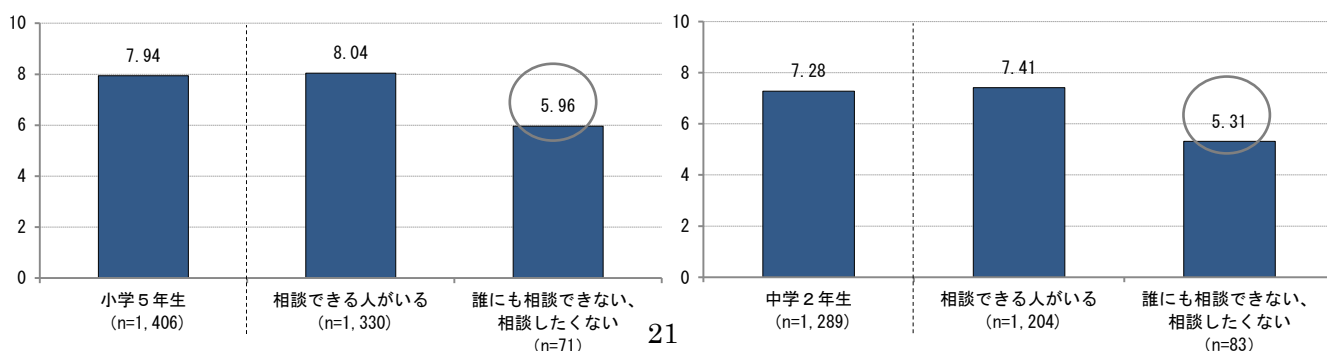


<グラフ⑲ 相談できる人の有無別の生活満足度>

※ 最近の生活にどれくらい満足しているかを、「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）までの数字で回答

【小学5年生】

【中学2年生】



(5) 心理的な状態

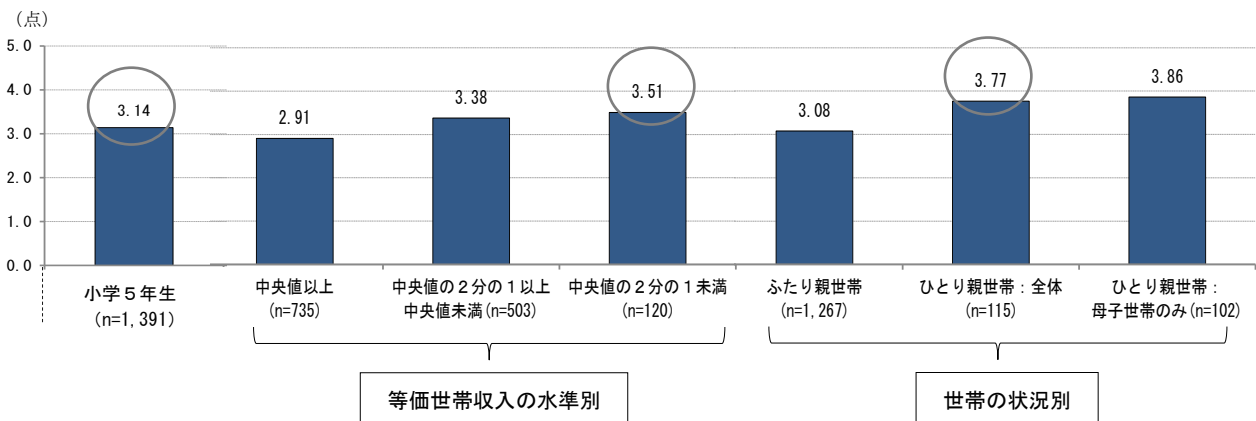
本調査では、内閣府調査と同様に、「子どもの心理的な状態」を調査した。このうち、情緒の問題に関し、次の5つの質問（ここ半年くらいのこと）ごとに、「あてはまらない」0点、「まああてはまる」1点、「あてはまる」2点を振り、その合計（0点から10点）を計算した。スコアが高くなるほど情緒に課題があることを示している。

- 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。
- 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
- 私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。
- 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
- 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

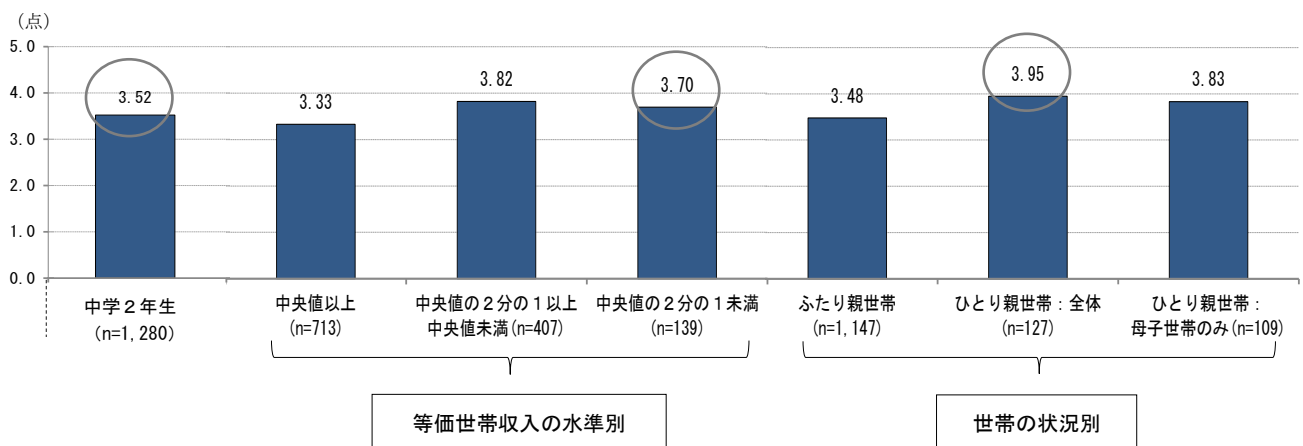
子どもの心理的な状態について、小学5年生全体のスコアは3.14点、中学2年生全体のスコアは3.52点であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生で3.51点、中学2年生で3.70点、ひとり親世帯では、小学5年生で3.77点、中学2年生で3.95点と、やや高くなっている（グラフ⑳）。

<グラフ⑳ 子どもの心理的な状態（情緒の問題）>

【小学5年生】



【中学2年生】



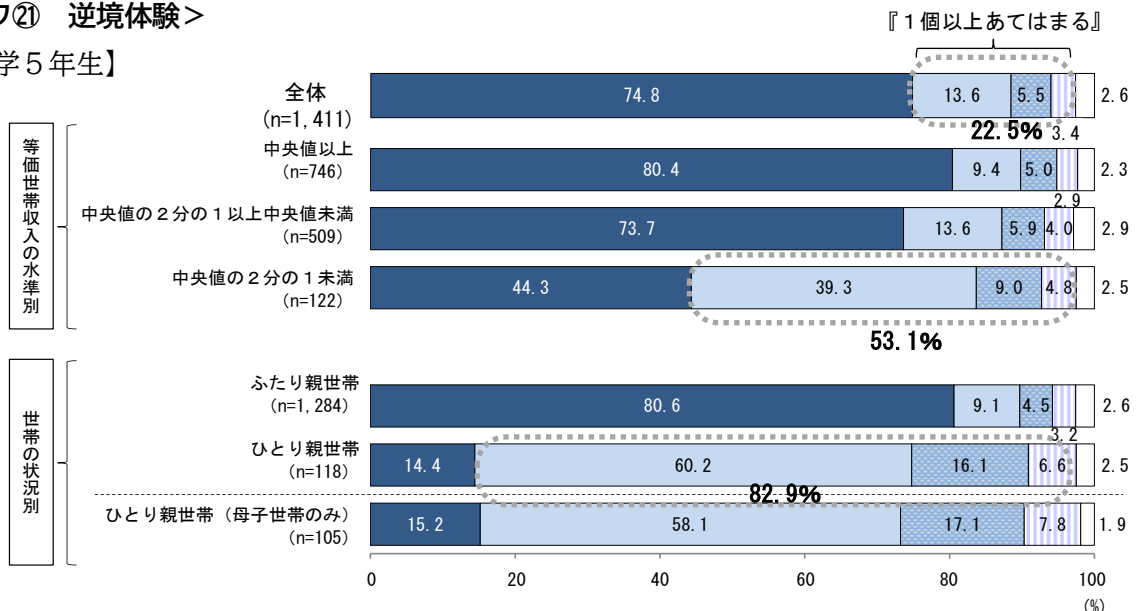
本調査では、内閣府調査と同様に、「子どもの逆境体験」に関して、次の8つの項目について当てはまる個数を調査した。

- 一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
- 一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
- 家族の誰からも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
- 必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人は誰もいないと感じることがある
- 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
- 一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
- 一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
- 一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる

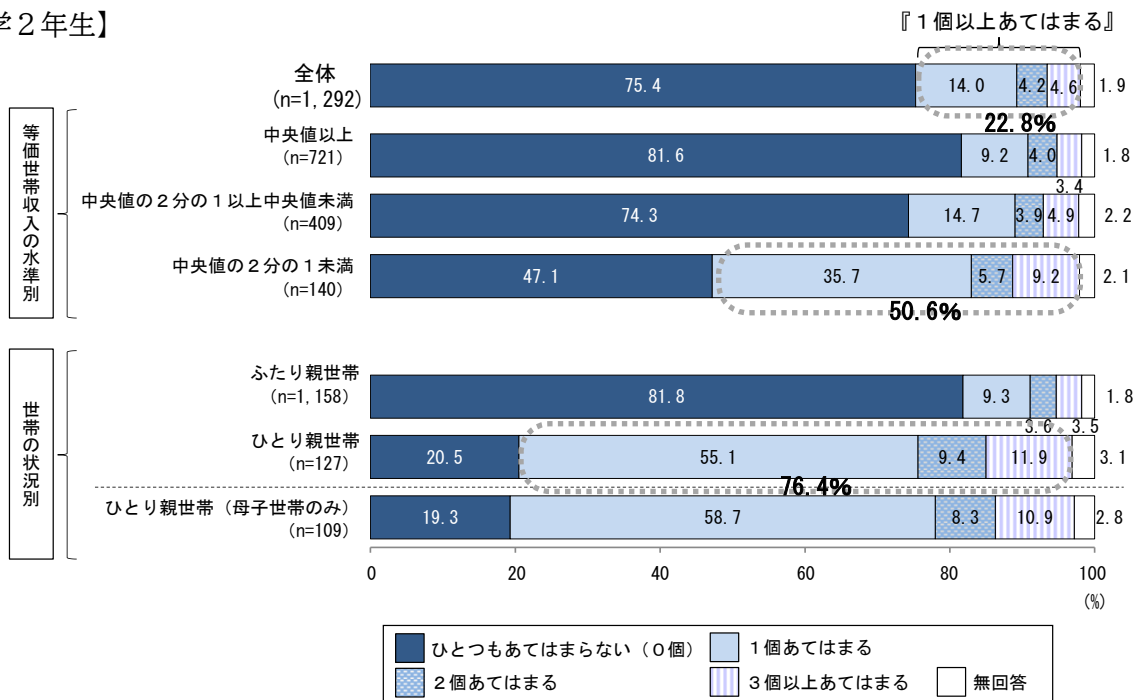
子どもの逆境体験について、『1個以上あてはまる』と回答した割合は、小学5年生全体で22.5%、中学2年生全体で22.8%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生で53.1%、中学2年生で50.6%、ひとり親世帯では、小学5年生で82.9%、中学2年生で76.4%と高くなっている（グラフ㉑）。

<グラフ㉑ 逆境体験>

【小学5年生】



【中学2年生】

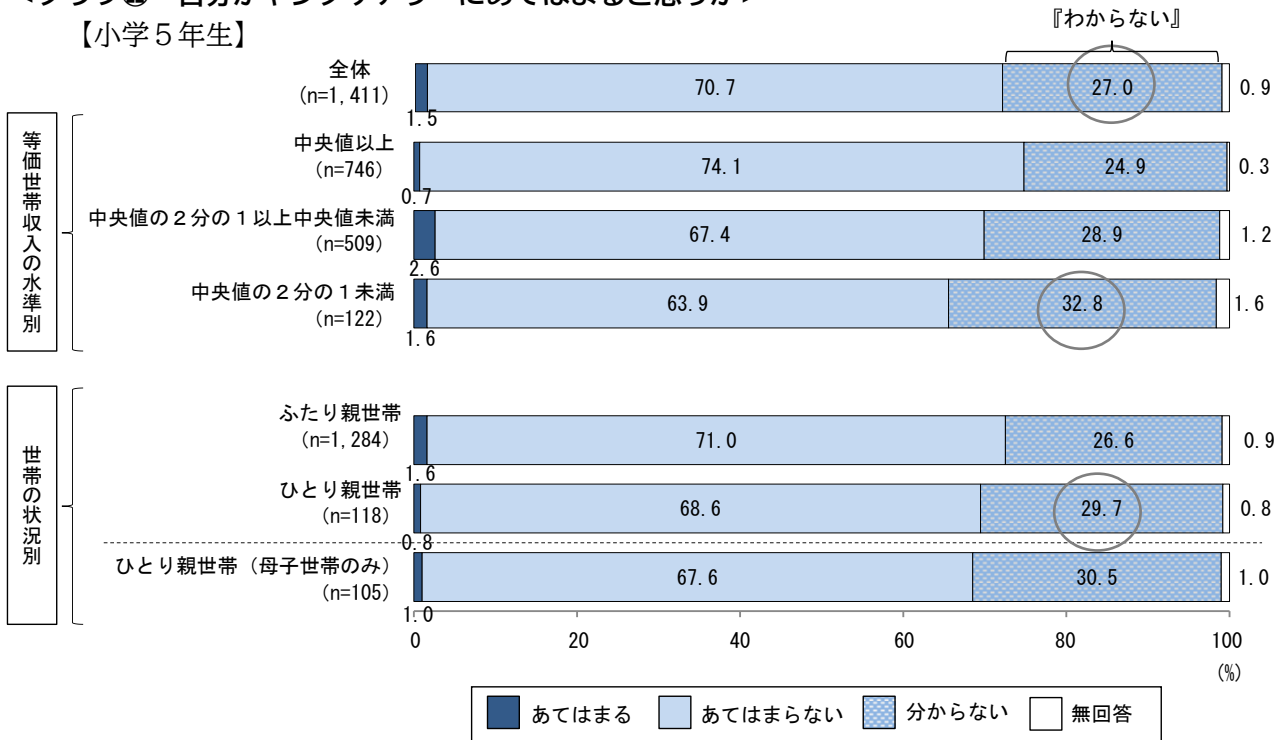


(6) ヤングケアラーの実態

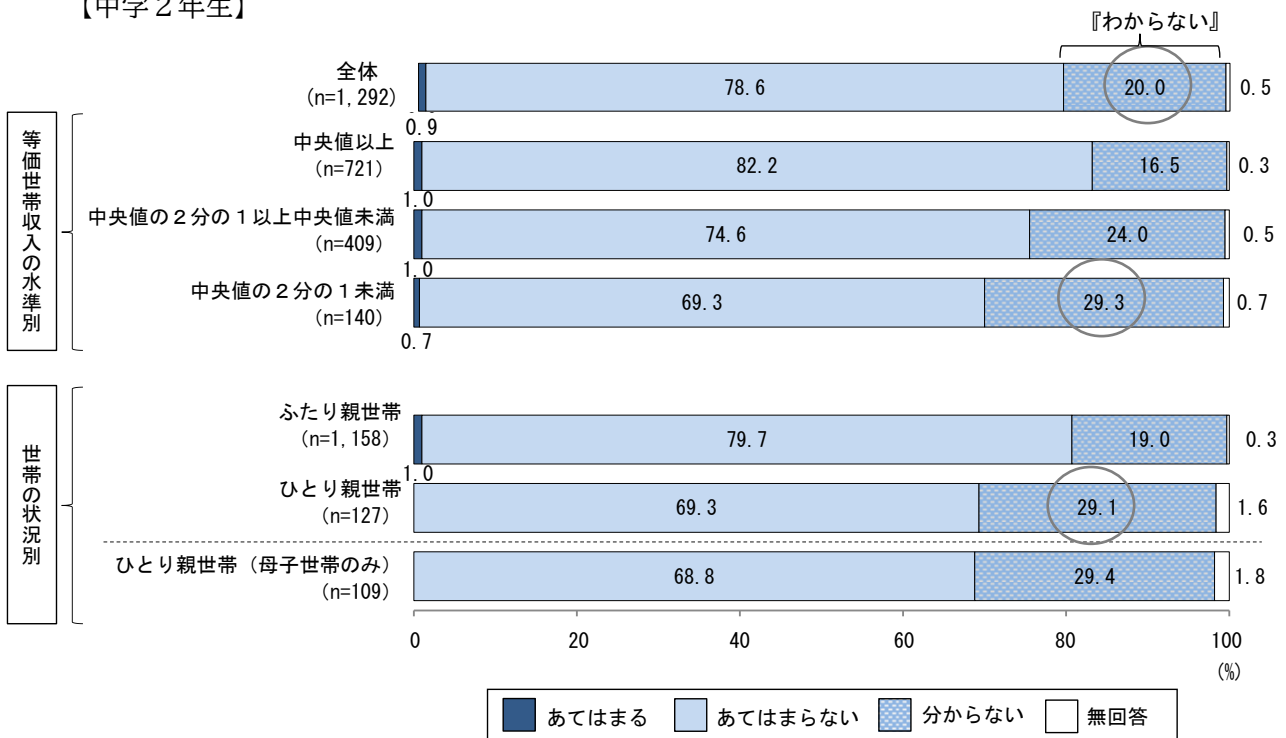
自分がヤングケアラー※に『あてはまる』と思うと回答した子どもの割合は、等価世帯収入の水準や世帯の状況による大きな差はみられず、0.7～2.6%であるが、『わからない』と回答した割合は、小学5年生全体で27.0%、中学2年生全体で20.0%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生で32.8%、中学2年生で29.3%、ひとり親世帯では、小学5年生で29.7%、中学2年生で29.1%と高くなっている（グラフ㉒）。

<グラフ㉒ 自分がヤングケアラーにあてはまると思うか>

【小学5年生】



【中学2年生】

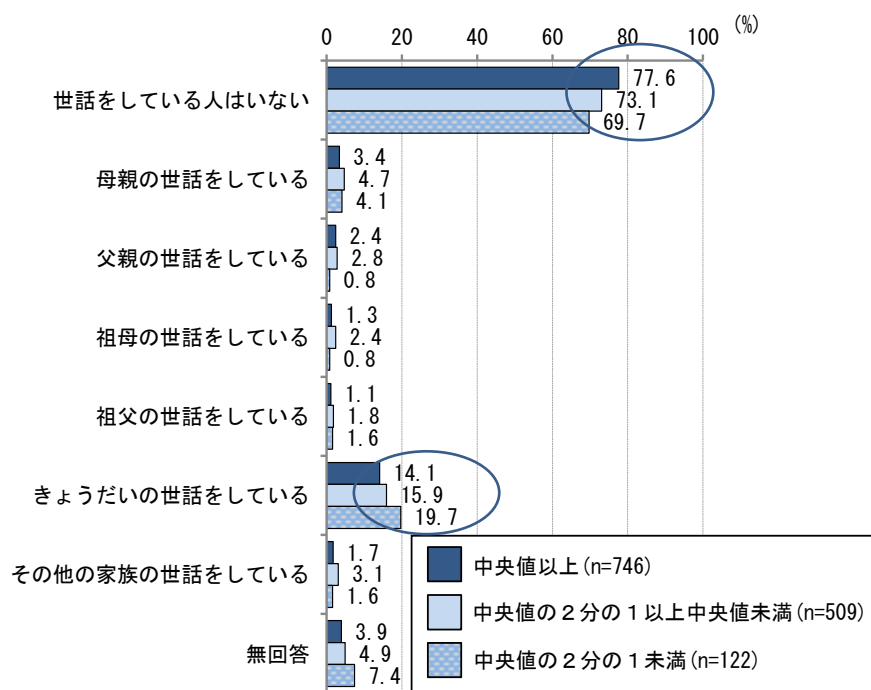


※ 「ヤングケアラー」とは、ふつう大人が行うような家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、自分のやりたいことができないなど、子どもの権利が守られていないと思われる18歳未満の子どもをいう。

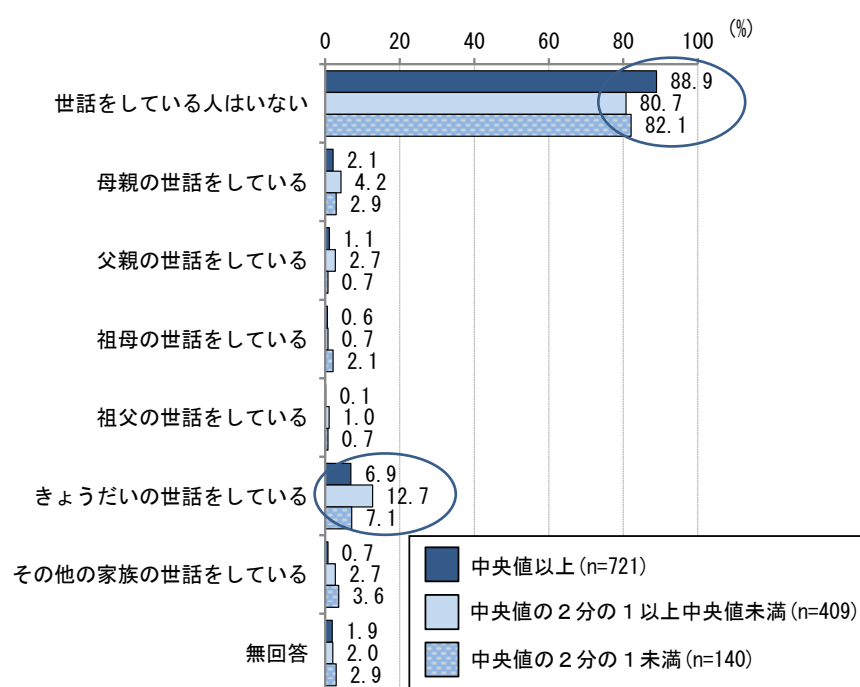
子どもが家族の中に世話をしている人がいるかどうかについて、小学5年生、中学2年生ともに等価世帯収入の水準が低い世帯では、『世話をしている人はいない』と回答した割合がやや低くなっている。また、世話をしている対象は、小学5年生、中学2年生ともに『きょうだい』の割合が高くなっている（グラフ②③）。

<グラフ②③ 世話をしている人の有無>（複数回答）

【小学5年生】



【中学2年生】



5 新型コロナウイルス感染症の影響


(1) 保護者

新型コロナウイルス感染症の拡大前後における「生活に必要な支出の変化」について、感染症の拡大前と拡大していた期間を比べて『増えた』と回答し、かつ、拡大していた期間と現在を比べて『増えた』と回答した割合が最も高く、小学5年生の保護者で46.7%、中学2年生の保護者で49.0%となっている。

また、感染症の拡大前、拡大していた期間、現在を通じて『変わらない』と回答した割合が次いで高く、小学5年生の保護者で33.9%、中学2年生の保護者で32.4%となっている（グラフ②④）。



<グラフ②④ 新型コロナウイルス感染症の影響（保護者）>

※ 保護者への質問「新型コロナウイルス感染症の拡大する前と拡大していた期間の生活の変化」と「新型コロナウイルス感染症の拡大していた期間と現在との生活の変化」のクロス集計

※ 表中の「」は、回答の割合をグラフで表したもの（次頁以降も同じ）



【小学5年生の保護者】

(%)
n=1,407

生活に必要な支出の変化		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
拡大前と拡大期間の変化	増えた	 46.7	0.6	6.6	0.1
	減った	3.1	1.3	1.2	0.1
	変わらない	5.5	0.4	 33.9	0.1
	無回答	0.3	0.0	0.0	0.1

【中学2年生の保護者】

(%)
n=1,292

生活に必要な支出の変化		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
拡大前と拡大期間の変化	増えた	 49.0	0.6	6.3	0.2
	減った	2.4	1.5	1.0	0.0
	変わらない	6.1	0.2	 32.4	0.2
	無回答	0.1	0.0	0.1	0.0

(2) 子ども

ア 小学5年生

いずれの質問でも、感染症の拡大前、拡大していた期間、現在を通じて『変わらない』と回答した割合が最も高くなっている。

また、感染症の拡大前、拡大していた期間、現在を通じて『増えた』と回答した割合が高くなっているものは、「a)学校の授業以外で勉強する時間」が17.2%、「f)親以外の大人や友達と話すこと」が22.3%、「m)家族で家で過ごす時間」が25.2%となっている。一方で、「e)夜遅くまで起きている回数」が23.2%、「h)イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」が11.9%となっている。

「c)地域のクラブ活動や学校の部（クラブ）活動で活動する回数」や「g)親以外の大人や友達の素顔を見ること」などは、感染症が拡大していた期間に減ったものの、現在にかけて回復しつつある（グラフ⑫）。

イ 中学2年生

次々頁のとおり、小学5年生とおおむね同様の傾向がみられるが、「b)学校の授業がわからないと感じること」は、感染症の拡大前、拡大していた期間、現在を通じて『増えた』が17.3%と高くなっている（グラフ⑫）。

<グラフ⑫ 新型コロナウイルス感染症の影響（子ども）>

※ 子どもへの質問「新型コロナウイルス感染症の拡大する前と拡大していた期間の生活の変化」と「新型コロナウイルス感染症の拡大していた期間と現在との生活の変化」のクロス集計

【小学5年生】

n=1,411 (%)

		拡大期間と現在の変化						拡大期間と現在の変化					
		増えた	減った	変わらない	無回答			増えた	減った	変わらない	無回答		
a) 学校の授業以外で勉強する時間	拡大前	増えた	17.2	2.8	7.2	0.1	d) 食事を抜く回数	拡大前	増えた	2.3	0.6	1.0	0.0
	と拡大	減った	4.2	2.3	2.1	0.0		と拡大	減った	0.3	3.2	1.6	0.0
	期間の	変わらない	7.8	1.9	53.9	0.2		期間の	変わらない	1.0	3.3	85.8	0.4
	変化	無回答	0.0	0.0	0.1	0.1		変化	無回答	0.0	0.2	0.2	0.1
b) 学校の授業がわからないと感じること	拡大前	増えた	10.9	1.9	3.9	0.1	e) 夜遅くまで起きている回数	拡大前	増えた	23.2	2.7	5.9	0.3
	と拡大	減った	0.9	12.4	5.7	0.1		と拡大	減った	1.2	4.7	1.7	0.1
	期間の	変わらない	3.2	5.0	55.4	0.1		期間の	変わらない	5.4	1.5	52.3	0.3
	変化	無回答	0.0	0.0	0.2	0.1		変化	無回答	0.3	0.1	0.1	0.2
c) 地域のクラブ活動や学校の部（クラブ）活動で活動する回数	拡大前	増えた	10.8	1.3	3.2	0.1	f) 親以外の大人や友達と話すこと	拡大前	増えた	22.3	2.3	6.4	0.2
	と拡大	減った	16.0	8.2	6.9	0.3		と拡大	減った	13.1	4.9	4.3	0.1
	期間の	変わらない	5.9	2.1	44.5	0.1		期間の	変わらない	9.0	1.2	35.3	0.1
	変化	無回答	0.0	0.1	0.3	0.2		変化	無回答	0.4	0.0	0.2	0.1

		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
g) 親以外の大人や友達の素顔を見ること					
拡大前	増えた	13.9	1.8	3.1	0.1
と拡大	減った	26.2	8.4	6.1	0.2
期間の	変わらない	5.3	2.6	31.0	0.4
変化	無回答	0.2	0.4	0.2	0.1
		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
h) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと					
拡大前	増えた	11.9	5.4	6.2	0.2
と拡大	減った	0.9	8.6	4.7	0.1
期間の	変わらない	3.1	5.6	52.4	0.4
変化	無回答	0.2	0.0	0.1	0.1
		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
i) 家族で外出する回数					
拡大前	増えた	10.2	1.3	2.6	0.2
と拡大	減った	25.8	13.8	9.7	0.1
期間の	変わらない	5.6	3.3	26.8	0.3
変化	無回答	0.1	0.0	0.1	0.1
		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
j) 家族で旅行する回数					
拡大前	増えた	6.9	0.9	1.3	0.0
と拡大	減った	19.3	17.1	14.1	0.4
期間の	変わらない	3.3	2.6	33.5	0.2
変化	無回答	0.1	0.1	0.1	0.2
		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
k) 野外レジャーに行く回数					
拡大前	増えた	8.0	1.6	2.9	0.1
と拡大	減った	13.6	13.7	12.3	0.2
期間の	変わらない	5.5	2.6	38.8	0.4
変化	無回答	0.0	0.0	0.0	0.4
		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
l) 屋内施設に行く回数					
拡大前	増えた	10.3	1.2	2.3	0.1
と拡大	減った	18.3	12.4	9.8	0.4
期間の	変わらない	5.5	2.3	37.0	0.2
変化	無回答	0.1	0.0	0.1	0.1
		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
m) 家族で家で過ごす時間					
拡大前	増えた	25.2	12.5	19.3	0.1
と拡大	減った	1.3	3.8	1.8	0.1
期間の	変わらない	4.1	1.8	29.4	0.1
変化	無回答	0.1	0.0	0.2	0.1

		拡大期間と現在の変化						拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答			増えた	減った	変わらない	無回答
a) 学校の授業以外で勉強する時間						e) 夜遅くまで起きている回数					
拡大前	増えた	18.3	3.7	8.8	0.0	拡大前	増えた	26.8	2.7	11.3	0.4
と拡大	減った	2.5	4.6	3.3	0.1	と拡大	減った	0.5	1.9	1.6	0.0
期間の	変わらない	9.7	3.3	45.0	0.2	期間の	変わらない	5.0	0.8	48.1	0.2
変化	無回答	0.2	0.0	0.2	0.4	変化	無回答	0.2	0.1	0.2	0.3
b) 学校の授業がわからないと感じること						f) 親以外の大人や友達と話をすること					
拡大前	増えた	17.3	2.6	5.1	0.4	拡大前	増えた	18.5	0.9	5.1	0.2
と拡大	減った	1.2	4.9	2.2	0.0	と拡大	減った	13.5	5.4	4.7	0.2
期間の	変わらない	5.7	2.6	57.4	0.2	期間の	変わらない	7.8	1.8	40.8	0.2
変化	無回答	0.0	0.0	0.2	0.4	変化	無回答	0.2	0.2	0.3	0.3
c) 地域のクラブ活動や学校の部(クラブ)活動で活動する回数						g) 親以外の大人や友達の素顔を見ること					
拡大前	増えた	16.6	1.8	2.9	0.0	拡大前	増えた	9.3	0.9	2.5	0.2
と拡大	減った	18.8	10.1	7.4	0.2	と拡大	減った	29.2	12.7	9.1	0.3
期間の	変わらない	7.3	1.5	32.6	0.0	期間の	変わらない	4.5	1.2	29.3	0.1
変化	無回答	0.1	0.1	0.2	0.5	変化	無回答	0.3	0.0	0.2	0.3
d) 食事を抜く回数						h) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと					
拡大前	増えた	4.1	0.7	1.2	0.0	拡大前	増えた	17.5	3.5	8.0	0.3
と拡大	減った	0.4	1.5	2.0	0.0	と拡大	減った	1.2	3.3	3.0	0.1
期間の	変わらない	1.6	1.7	85.8	0.3	期間の	変わらない	2.7	3.3	56.3	0.1
変化	無回答	0.0	0.0	0.2	0.4	変化	無回答	0.2	0.0	0.2	0.3

		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
i) 家族で外食する回数					
拡大前	増えた	4.6	0.5	1.3	0.1
と拡大	減った	24.3	15.1	13.4	0.2
期間の	変わらない	4.5	2.1	32.9	0.2
変化	無回答	0.2	0.1	0.2	0.3
		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
j) 家族で旅行する回数					
拡大前	増えた	2.9	0.2	0.6	0.0
と拡大	減った	17.9	18.6	19.3	0.1
期間の	変わらない	3.1	1.3	35.2	0.2
変化	無回答	0.0	0.1	0.2	0.3
		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
k) 野外レジャーに行く回数					
拡大前	増えた	5.2	0.7	1.5	0.1
と拡大	減った	13.0	15.8	17.7	0.2
期間の	変わらない	3.8	1.8	39.3	0.1
変化	無回答	0.2	0.0	0.3	0.3

		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
l) 屋内施設に行く回数					
拡大前	増えた	10.4	0.7	2.5	0.0
と拡大	減った	18.3	12.7	11.1	0.2
期間の	変わらない	5.3	2.1	35.9	0.2
変化	無回答	0.1	0.0	0.4	0.3
		拡大期間と現在の変化			
		増えた	減った	変わらない	無回答
m) 家族で家で過ごす時間					
拡大前	増えた	23.0	12.0	22.4	0.0
と拡大	減った	0.5	5.3	1.5	0.0
期間の	変わらない	2.1	2.4	29.9	0.4
変化	無回答	0.2	0.1	0.1	0.3

6 支援制度の利用状況等

(1) 支援制度の利用状況

支援制度について、『就学援助』を受けている割合は、小学5年生の保護者全体で16.2%、中学2年生の保護者全体で19.0%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、小学5年生の保護者で72.1%、中学2年生の保護者で80.0%、ひとり親世帯では、小学5年生の保護者で68.6%、中学2年生の保護者で74.0%と高くなっている。

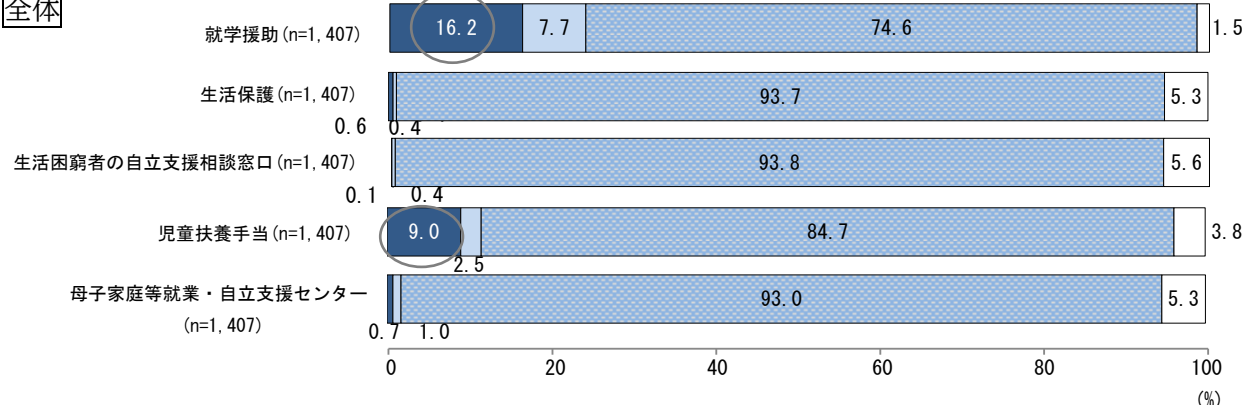
『児童扶養手当』を受けている割合は、小学5年生の保護者全体で9.0%、中学2年生の保護者全体で9.8%であるのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」では、小学5年生の保護者で49.2%、中学2年生の保護者で52.1%、ひとり親世帯では、小学5年生の保護者で63.6%、中学2年生の保護者で66.9%と高くなっている。

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯とひとり親世帯のいずれも、『就学援助』や『児童扶養手当』を受けている割合が高い一方で、その他の支援制度を現在利用している世帯は10%未満となっている（グラフ㉔）。

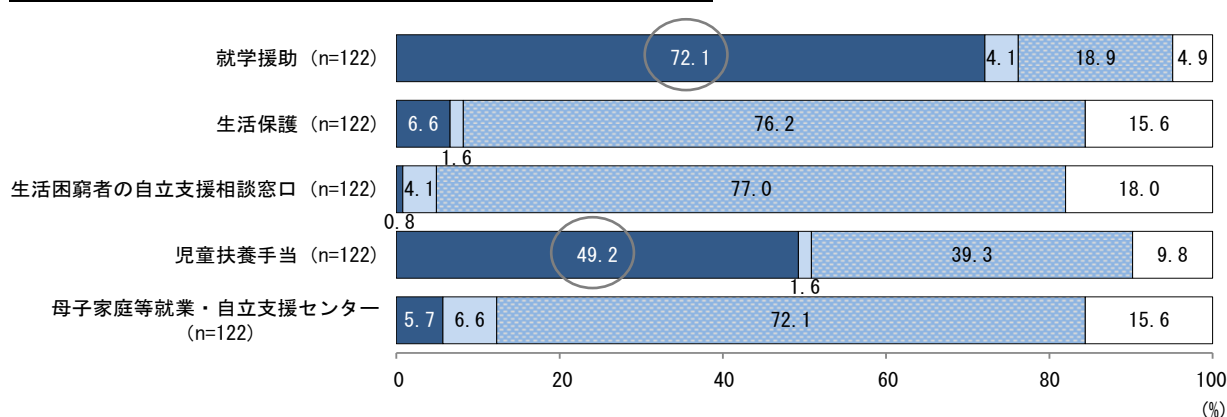
<グラフ㉔ 支援制度の利用状況>

【小学5年生の保護者】

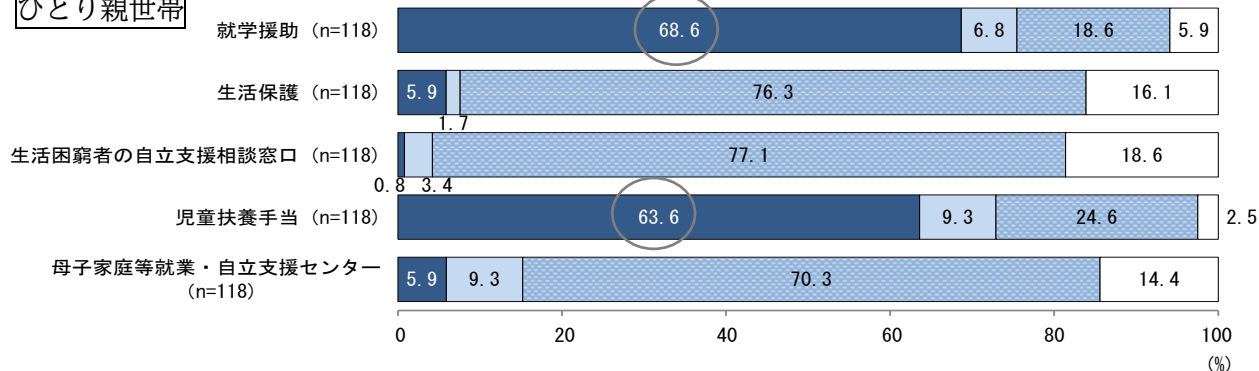
全体



等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯

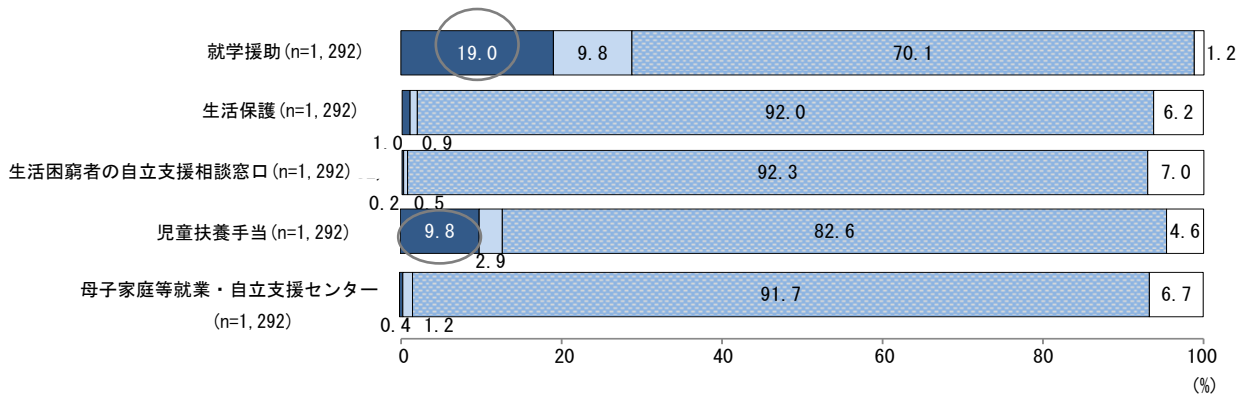


ひとり親世帯

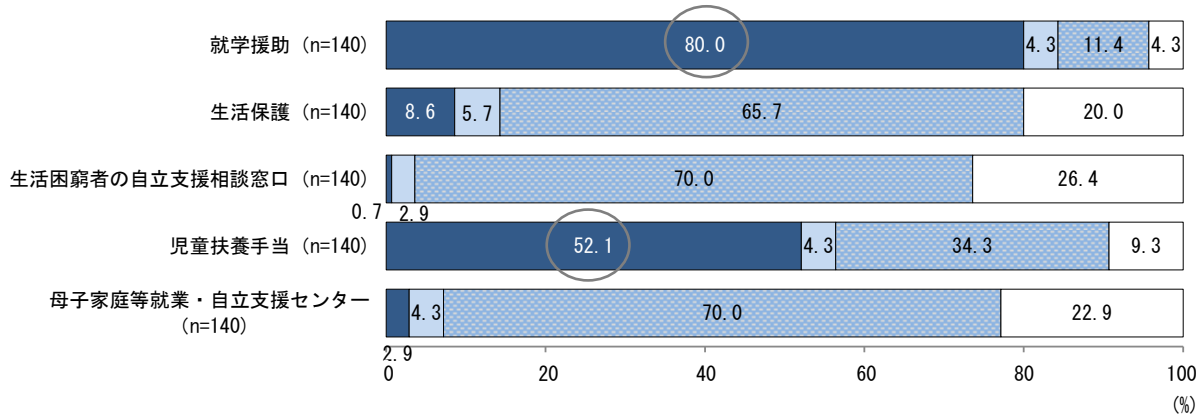


【中学2年生の保護者】

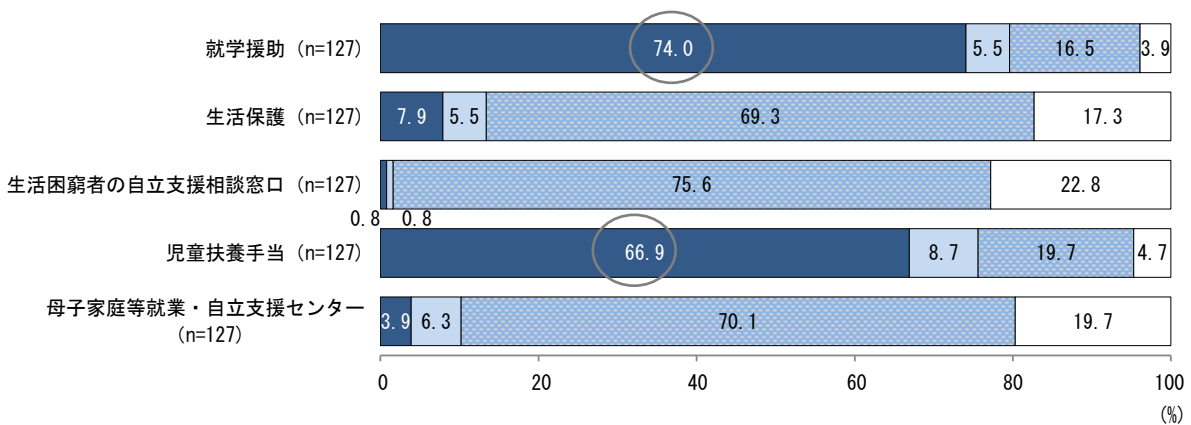
全体



等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯



ひとり親世帯



(2) 支援制度を利用していない理由

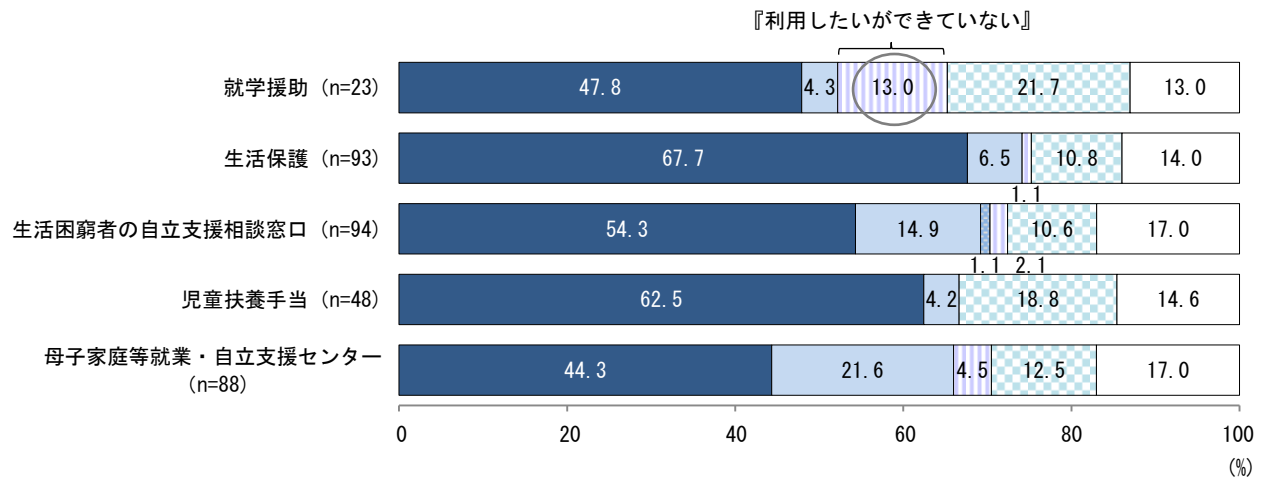
等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯やひとり親世帯が、支援制度を利用していない理由については、いずれの制度においても、小学5年生の保護者、中学2年生の保護者ともに、『制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思っから』と回答した割合が最も高くなっている。

小学5年生の保護者の「中央値の2分の1未満」の世帯では、「就学援助」を受けていない理由を『利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから』と回答した割合が13.0%となっている。また、中学2年生の保護者のひとり親世帯では、「母子家庭等就業・自立支援センター」を利用していない理由を『利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから』や『利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから』と回答した割合が12.4%となっている(グラフ㉗)。

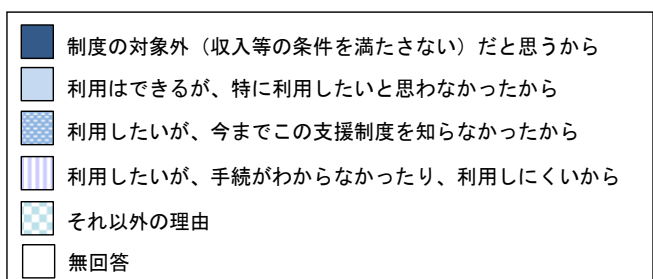
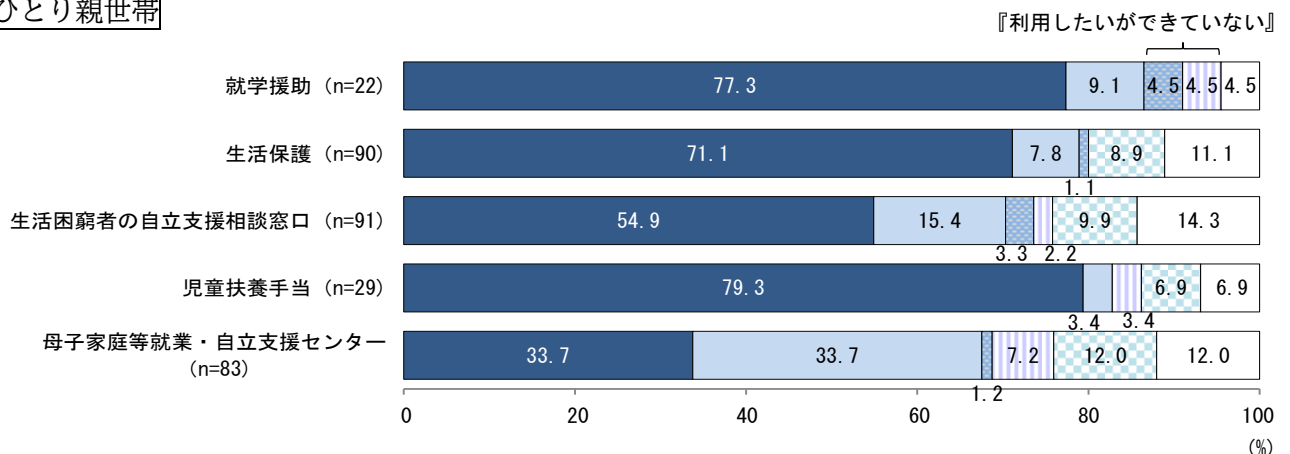
<グラフ㉗ 支援制度を利用していない理由>

【小学5年生の保護者】

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯

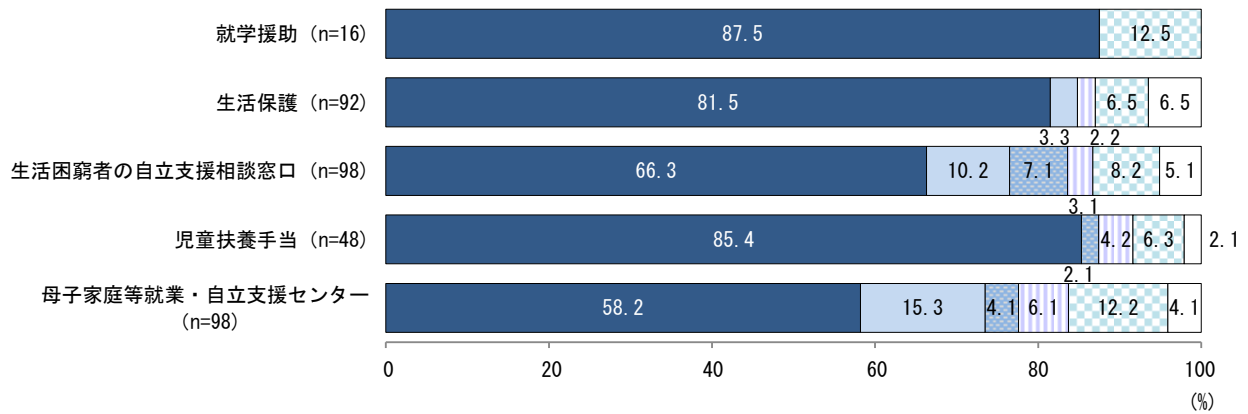


ひとり親世帯

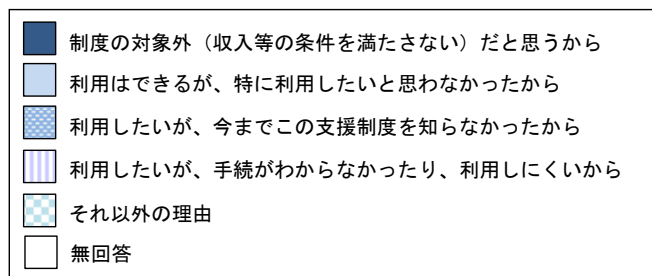
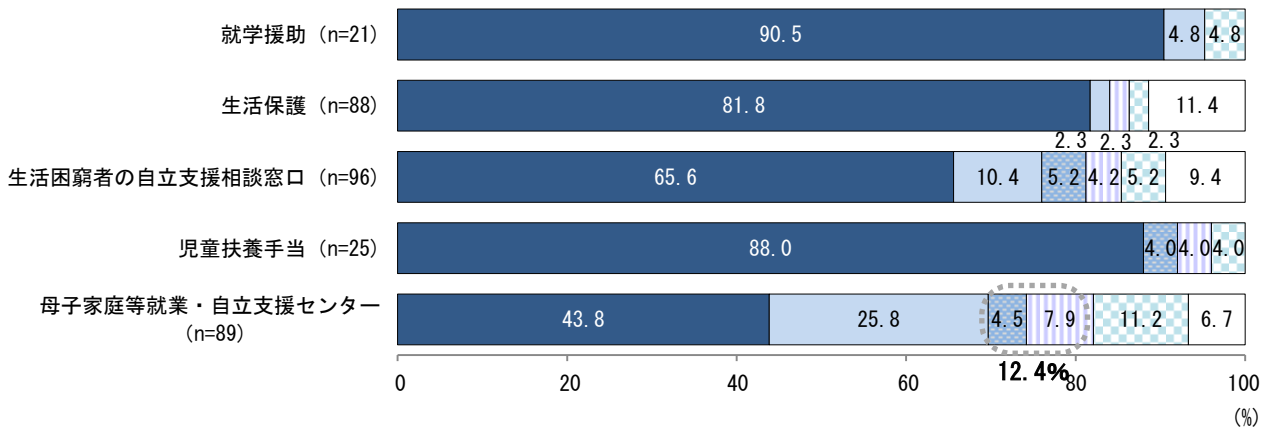


【中学2年生の保護者】

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯



ひとり親世帯



(3) 子どもの居場所

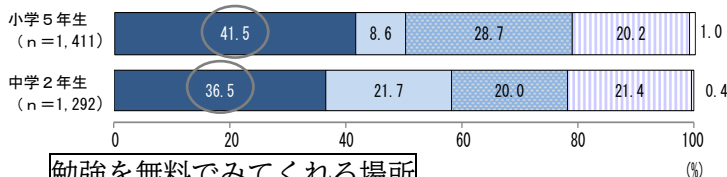
子どもの居場所について、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」は、40%程度の子どもが利用している。その他の居場所を利用している子どもは10%未満であるが、いずれの居場所も『あれば利用したいと思う』が20~40%程度となっている（グラフ⑳）。

居場所の利用による効果として、小学5年生では、『友だち』『気軽に話せる大人』『生活の中で楽しむこと』『ほっとできる時間』が増えたと回答した割合が、いずれの居場所でもおおむね30%を超えて高くなっている。中学2年生では、「勉強を無料でみてくれる場所」においては『勉強する時間が増えた』が43.5%と最も高くなっており、「何でも相談できる場所」においては『ほっとできる時間が増えた』が38.5%と最も高くなっている（グラフ㉑）。

<グラフ⑳ 子どもの居場所の利用状況>

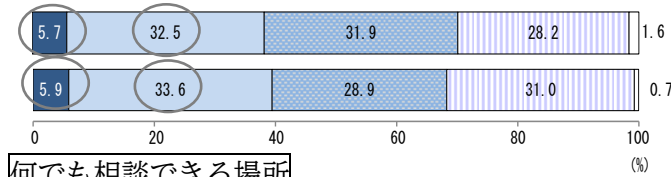
平日の夜や休日を過ごすことができる場所

（放課後児童クラブ、児童館、公民館、図書館など）



夕ごはんを無料か安く食べることができる場所

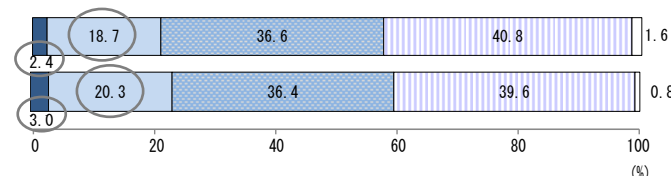
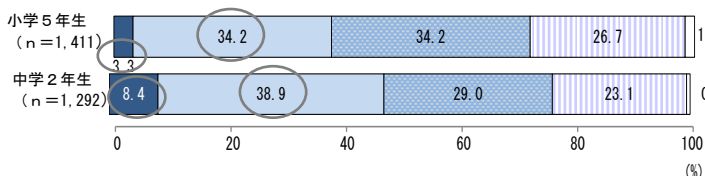
（子ども食堂など）



勉強を無料でみてくれる場所

何でも相談できる場所

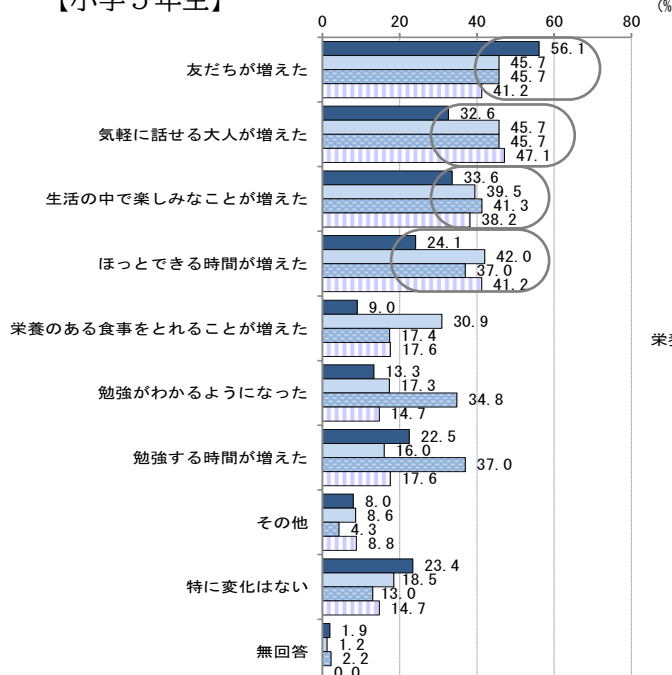
（電話やネットの相談を含む。）



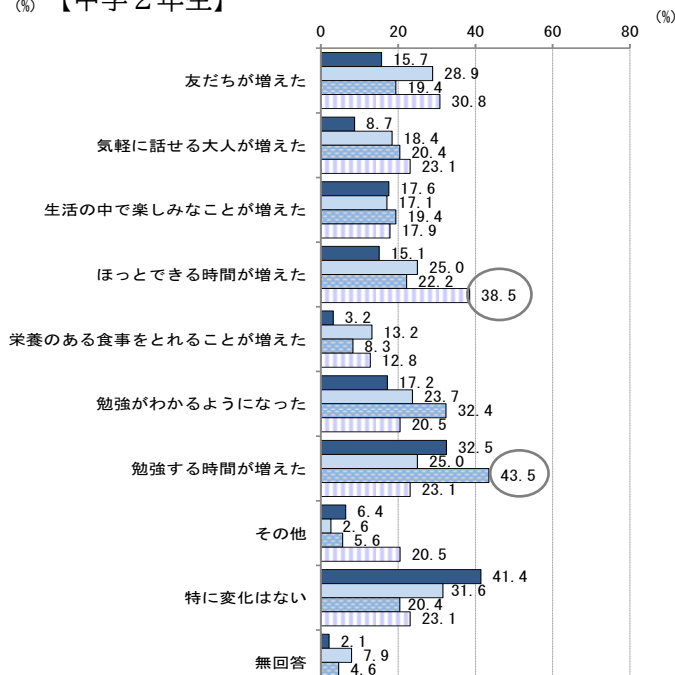
■ 利用したことがある □ あれば利用したいと思う
 ■ 今後も利用したいと思わない □ 今後利用したいかどうか分からない □ 無回答

<グラフ㉑ 子どもの居場所の利用効果>（複数回答）

【小学5年生】



【中学2年生】



■ (自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (n=586)
 ■ (自分や友人の家以外で) 夕ごはんを無料か安く食べることができる場所 (n=81)
 ■ 勉強を無料でみてくれる場所 (n=46)
 ■ (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (n=34)

■ (自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (n=471)
 ■ (自分や友人の家以外で) 夕ごはんを無料か安く食べることができる場所 (n=76)
 ■ 勉強を無料でみてくれる場所 (n=108)
 ■ (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (n=39)

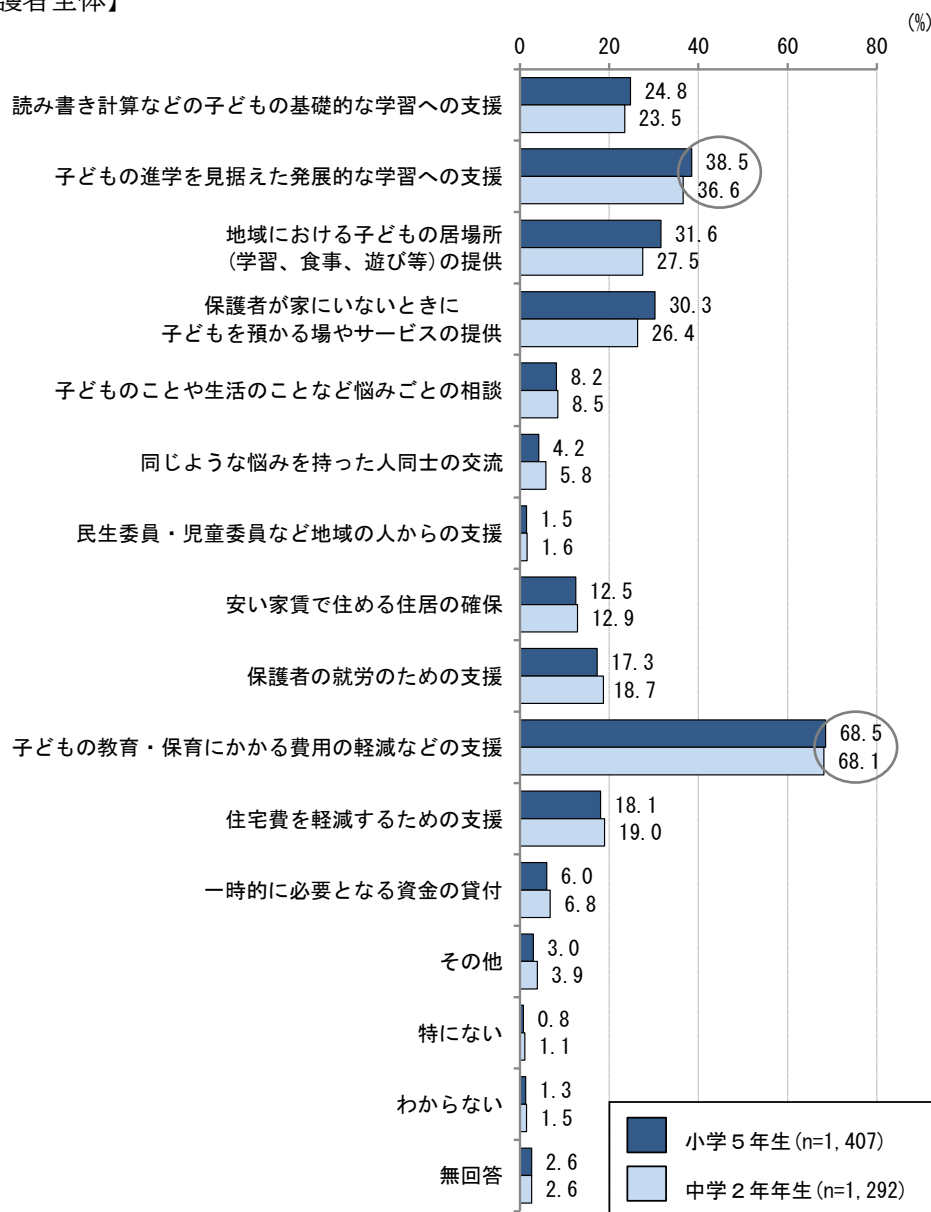
7 充実を望む支援

保護者への「全ての子どもが生まれた環境に左右されることなく、夢と希望を持って成長していける社会の実現に向け、どのような支援が充実するとよいと思うか」との質問について、『子どもの教育・保育にかかる費用の軽減などの支援』と回答した割合が、小学5年生の保護者全体で68.5%、中学2年生の保護者全体で68.1%と最も高く、次いで『子どもの進学を見据えた発展的な学習への支援』と回答した割合が、小学5年生の保護者全体で38.5%、中学2年生の保護者全体で36.6%と高くなっている。なお、どちらの回答も、等価世帯収入の水準や世帯の状況にかかわらず高くなっている。

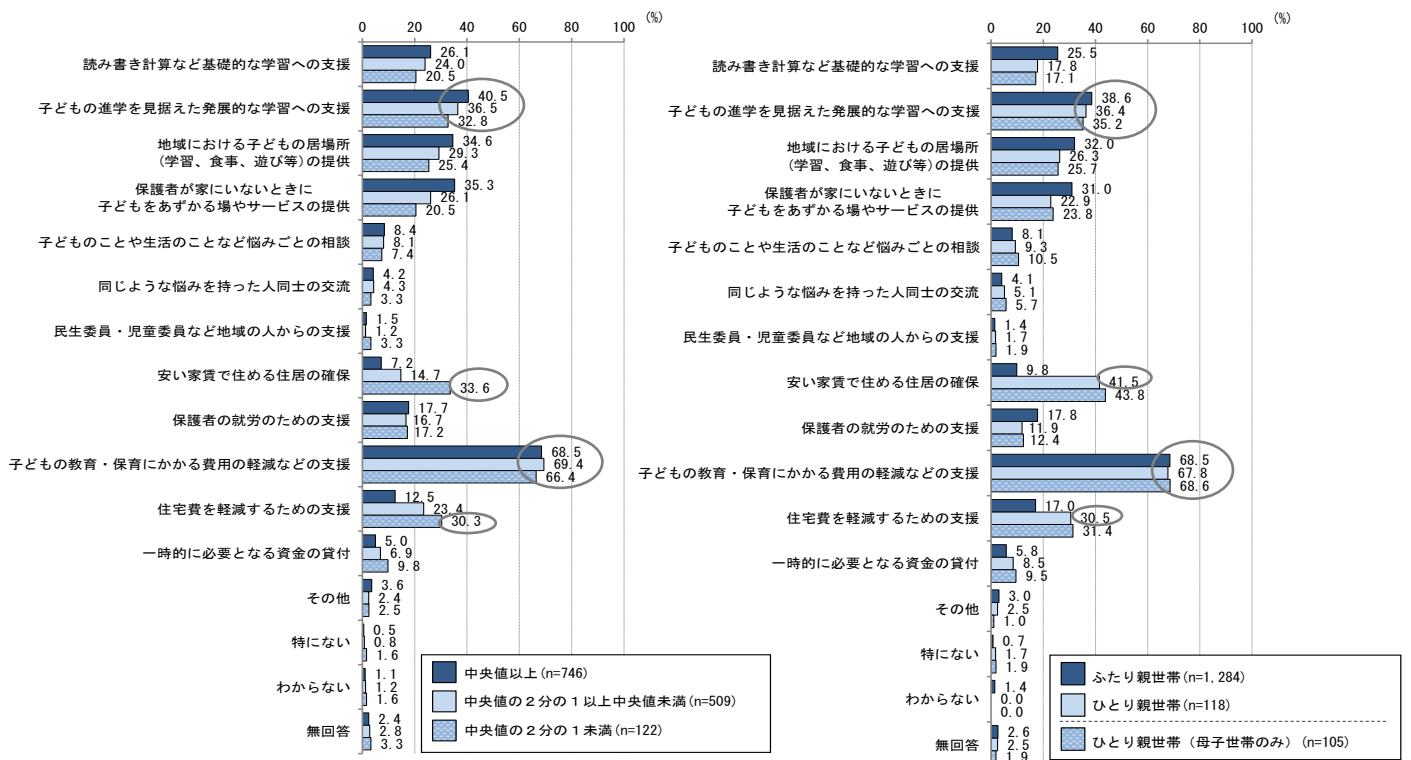
また、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯やひとり親世帯では、『安い家賃で住める住居の確保』や『住宅費を軽減するための支援』と回答した割合も、小学5年生の保護者、中学2年生の保護者ともに30~40%前後と高くなっている（グラフ③〇）。

<グラフ③〇 充実してほしい支援> （3つまで回答）

【保護者全体】



【小学5年生の保護者】



【中学2年生の保護者】

